新女界

第二巻 第十一號

明治四十三年十一月一日發行（毎月一回發行）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第貳卷第拾壹號目次

●獨立と調和　安井哲
●湯臺叢話　谷津直秀
●現代婦人の覺悟　海老名彈正
●祈禱の力　村田勤
●ゆきあたりばつたり集　内ケ崎作三郎
●秋の空　無繋生
●獨り子の教育に就て　海老名みや
●イマヌエル行　田澤藤郎
●獨力よく一町の信仰を支へし老婆　鹿子木つや
●十四年ぶりの旅路日記　海老名みや
●摘草集（新聞雜誌瞥見）
●時事折々
▲葡萄牙の革命▲戰艦「河内」の進水▲工場法案の發表▲波斯の騷亂
●隨感
▲目前の利害を超越したる生活　小此木松子
▲後れ行く母親　大塚楠男
●通信
婦人信徒大會　三宅夏子
●編輯だより

完全無缺頭髮用

夏になつて自らも不快、他人をも不快に感せしむるものは毛髮のふけと惡臭です、女髮結が屢々病に罹る源は此猛烈な惡臭の爲めに神心を煩ふからだと申します
此點に於て第一に御勸め致しますのは千代田香油であります本品は純粹の椿油を根本とし歐米流行の香料を配劑した佳品です
毛髮を漆黑ならしめ ふけを防ぎ くせを直し
芳香優秀で長時間を保ち香水の代用を爲し自ら心神を爽快ならしめます
特製七十錢　大瓶三十五錢　中瓶二十五錢　小瓶十七錢
試用見本は郵劵代用にて御申込次第送附す

スワン石鹼

純白で湯水に浮き價安くして品の善いスワン石鹼は到る處の小間物、化粧品、藥舖にあり

東京馬喰町四丁目
スワン石鹼 日本一手販賣
山岸三之助
電話浪三七九三
振替口座一九九七八

婦人世界

五巻第拾参號　十一月一日

半年分郵税共一圓五錢　一年分同二圓五錢

一冊拾五錢　郵税一錢五厘

◎我が國の婦人は斯くまで贅澤になれり……村井弦齋
◎女學生に讀ませる書物と禁ずる書物……三輪田元道
◎私の今日あるは我が妻のお蔭……石黒男爵
◎筋骨を強くする食物（弦齋夫人料理談）……一記者
◎歴史講談『正直久助』……細川風谷
◎口癖のやうに頭痛がするといふ婦人あり……天本醫學士
◎新聞呼賣の貞女……萩原志計野子
◎京都蛤御門の戰に遭つた當時……中村母堂
◎小兒病の豫防法……加藤博士
◎五百里の遠國から苦學したさに上京した少女……昇よし子
◎顔に似合ふ髪の結び方……桑島千代子
◎染物と織物『帯地とその模様』……川村文芽
◎結婚前の理想と結婚後の實際（鈴木新夫人　齋藤新夫人）
◎十六歳で試驗に及第した日本一の若い産婆……村田阿栗子
◎夜店で足袋を賣つて親を養ひし良人の貧乏時代……梅博士未亡人

東京京橋南紺屋町
實業之日本社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

羽仁もと子編輯

毎月一回
一日發行

婦人之友

定價
一冊金拾貳錢
半年六十五錢
一年壹圓廿錢
（郵稅共）

●三卷九號（十月一日發行）

臺所書報（五）……羽仁もと子
自ら主たらしむる教育……松浦政泰
家庭の小改良案
我家の下婢
一、使ひつゝ教へつゝ……加納鎰子
二、女中はホンの手傳人……佐治實然
三、糸の働きぶり（感ずべき下婢の實例）……一讀者
灌腸と洗腸……醫學博士 加藤照麿
父母の訓（「イヤ」といふ言）
座談一束
▲男教師と女教師の見かた。
▲非教育的なる讀物。
▲我子の價値は割引して考へたし。
▲神經衰弱は働くに限る。
衣服の擇び方（冬もの買入の參考）……齋藤春代
主婦の經驗
○簡易なる餡の製法○我家のライスカレー○黄金糖等
家政問答……編者
育兒問答……編者
讀者消息
同じ愛讀の友へ。寸法の相違。七年來の友。苦き經驗をもち給ふ方々のこと思ひいで。

●三卷十號（十一月一日發行）

發行所 東京小石川雜司ヶ谷町 振替東京壹六〇〇番 婦人之友社

移轉廣告

今般都合により左記に移轉致候に付き一切の要事は爾今同所宛御願申上候

明治四十三年十一月一日

東京市小石川區林町四十三番地

新人社事務所

日本輸入品に限り包裝紙に斜に「**アイボリー石鹼**」と記入し一見模造惡質石鹼と判別に容易ならしむ

御購求の節「**アイボリー石鹼**」に御注意を乞ふ

女子音樂園　生徒募集

(一)音樂科

ピアノ科　オルガン科

ヴァイオリン科　琴科

唱歌及び樂理科

●右は一科以上幾科でも兼修が出來る

●初學者と否とを問はず、いつでも入學が出來る

●普通科、受驗科、高等科等にも補缺入學を許す

(二)繪畫科

日本畫科　顧問　川端玉章

　　　　　同　荒木寛畝

塗板畫科　同　川合玉堂

　　　　　講師　川村東陽

●初學者と否とを問はずいつでも入學が出來る

(三)割烹科

西洋料理　學習院女學部講師　和久井淺之助

日本料理　同　三枝富吉

詳細の事は申込次第規則書を送ります

東京下澁谷女子音樂園

(青山電車終點より直に左折約五丁)

婦女界

十一月號

◎子女を惡化しつゝある我邦の家庭…菊地大學總長

◎日本の女子は此點を改めねばならぬ…井上文學博士

◎婦人の發狂は如斯き夫に多し…吳 醫學博士

◎國民道德に就いての注文…下田文學士

▲十三歲から赤貧の中で二人の弟を敎育した苦心　島貫夫人

▲車夫や立ン坊が喧嘩の仲裁までした繩暖簾時代　神谷夫人

▲滿州で馬賊の襲擊に遭ひ奇計を以て免れた實驗　井上泰子

◎舞姬　靜の性格……戶川殘花

▲死を決して六人の劍客と仕合ひたる當時の感想　古登子

▲馬を飼ひ鍬を磨き薄給の夫を助けた當時の追懷　益田夫人

▲放蕩の男子に嫁し矯正せんとして失敗した經驗　きぬゑ子

▲子供　泣き癖と其矯正法……岸邊福雄

▲手の人と頭の人との相違……上野學士

▲下田歌子女史と安井哲子女史の面影

▲外交官夫人の身元調べ　――　お產の前後

▲御飯の食べ方季節料理　――　婦人の內職

一冊十五錢
六冊九十錢

懸賞文藝
和歌、俳句、短文
繪畫、習字、笑話
等の募集has細誌上に有

東京神田　同文館　振替一三五

第貳卷第拾壹號

人の世にある、たかきいやしき、皆身をおさめて家をとゝなふるを以てつとめとす。家の本は身にあり、故に家をおさむる主人は、先づわが身を正しくして、家をとゝなふべし。身おさまらざれば、家とゝなひ難し、家とゝなはざれば、身を安くしがたし。君子はつねに身をつゝしみて、後の患をおもんぱかる。こゝを以て身安くして家保つべし、家のあるじ正しければ家人を敎へ導くべし、主人正しからざれば、家人の則なく、善をすゝめ惡をいましめ難くして、家法行はれず、故に主人のおこなひは、家人の見ならへる手本となれり、つゝしむべし。（貝原益軒）

獨立と調和

安井哲

我々女子は　女子として長所も有つて居ませうが、短所も亦少くはありません。そして其短所は、從來種々の學者や敎育家に依つて、懇に指摘せられて居るのみでなく、吾々自身も亦充分に之れを自覺して居ります。併し自覺して居るのみで、之れを改めなければ何の甲斐も御座いませんから、私は今私共の互に注意して改善したいと思ふ一の點を申してみたいと存じます。

女子の本職が家庭にある事は申すまでも御座いませんが、實際は家庭專門の者でも、敎育事業や、慈善事業、又は種々の社會事業に關係を有つて居る者が、中々多く、家庭の仕事以外には全然無關係であるといふ女子は、少い樣に思はれます。よし又家庭內に在つて、舅姑や、夫や、子供にのみ接して居る純粹の奧樣でも、或意味に於ては、矢張家庭といふ小社會に働いて居ると觀る事が出來ませう。

そこで、かく自分以外の人々と團體的の交りをし、又は協同的の仕事を爲す場合に於て、缺くべからざる要素が二あります。卽一は獨立の精神で、他は調和の精神であります。此二は其性質が相反して居る樣に見えますから、互に結び付かぬ樣に思はれる方もありませうが、實際は決して左樣ではありません。例へば純粹の奧樣の場合に於て申せば、一家の經濟から子女の敎育に至るまで、大體に於ては、勿論夫に相謀るべきでありますけれども、若し妻が是等に對して、何等自己の見識もなく、單に夫の命にのみ從つて居るとすれば、如何でありませうか。或は夫の旅行中、或は夫の外國漫遊中などの場合に、起つて來た種々の出來事は、到底一人で處置する事が出來ぬ樣になりませう。其故に理想的の家庭には、正しく物事を判斷し得る夫婦があつて、互に相謀り、相一致して事を處理するといふ事でなければなりません。若し家長一人最高等な敎育があつて、家族は盡く無學であつたとしたならば、一見誠に平和な家風が出來て、家族は皆家長に絕對の從順を爲し得る樣に思はれますが、事實は其正反對であります。能く物の道理の解つた婦人が、其家庭の幸福の爲めに、誠意其家事を處理するといふ場合には、自動的に調和を求める樣になり、自進んで、夫の意見に從ひ、舅姑の心を柔げん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と努むる様になるのみならず、一面には、夫の留守中、能く獨立的に其責任を盡す事が出來ます。之れが所謂獨立的の調和といふ者でありませう。

或は又教育事業や社會事業に從事する場合でも同様で、團體の各員が、皆獨立的に各見識を有つて居り、各熱心に其事業の進歩發展を希望して居ります時には、其事業を中心として、境遇も、位置も、身分も違つた人々が、快く調和する事が出來ます。卽ち若し他人の考が、其事業の進歩を助くるに適當であると認むれば、假令それが自己の考でなくとも、其事業を愛する熱誠から直に之に贊同するのでありませう。然るに吾々婦人の傾き易い弊は、其事業が中心でなく、自己が中心でありますから、日頃親しくない人の發言は、直に不快の感を以て之を迎へたり、又自分のでなければ、如何に正しい説でも、之れを否定するといふ様な事は、婦人の集合に於て、往々實驗する所であります。かゝる人々の集合は、決して各員に快感を與へません。從つて一生懸命に其事業に盡力しやうとする努力が出來ませんから、其會合には生命も元氣もなく、少數の者が常に我意を通さうとし、多數の者は陰に不快を感じつゝ、陽には、心にもない贊同を表するといふ、誠に好ましからぬ風が作られる様になります。吾々婦人のみで企てゝ居る事業が進歩せぬとか、又は會員互に一致せぬとか、常に外部の批評を受くるのは、卽此處なのであります。

故に私共は、家事でも、教育事業でも、何でもかでも、之れに從事する前には、先づ誠意を以て當らうと、確り覺悟を定める事が大切で、其結果は自然其改善進歩の爲めに盡力する様になります。かくなれば勢其從事して居る仕事が中心になつてまゐります。そこで自然に他人の意見も聞いてみたくなり、廣く外に參考を求める様になりますから、他の意見を拒むどころではなく、喜んで之れに注意する様になりませう。かくなれば度量も亦廣くなつて、偏狹な憎惡の情から、他人の説を否定する様な卑劣な事をせぬ様になるのであります。要するに、吾々は常に自己以上の者を認識して、眞に謙遜でありたいと思ひますが、此謙遜を誤つて、何でもかでも「私は存じません」「私などには解りません」の一點張りでは、少しも他人に快感を與へません。況して肝心の相談會に此有様では、會合せぬのが却つて勝つて居ります。誰も彼も無言で居るか、又は誰も彼も無意見ならば、寧ろ誰でも意見のある人が、爲したい様に爲る方が遙に勝つて居ます。而も一面にはかく無言であり、又無意見と稱する人は、心中大に不滿足を感じて居るのが常であります。故に幾分の意見があるならば、必要に應じて、之を明に發表する方が、却つて周圍の人々に打解けるのであり、又若し他人の意見が、自分のよりも勝つ

て居ると認めた時には、快く之れに賛同するのが、其仕事に忠實なる者であります。故に獨立の精心といふ意味は、頑固一點張とか、他を壓制するといふ樣な意味ではなく、自分自身に相應の見識を有つて居るといふ事であります。之に對して、調和の精神といふ事は、我に正邪の判斷がなく、何でもかでも、他人の意に從ふといふ事ではなく、我より大なる者例へば、家庭とか、社會とかの幸福の爲めには常に喜んで、他人と調和し、協同的の行動を取らんと、心に準備して居る事をいふのであります、此二つの精神が充分に結び付いた時が、初めて團體的生活をなす我々に、眞の快感を與ふるのでありませう。

十一月の異名

しもつき、なかの冬、ゆきまち月、かぐら月、神かへり月、子月、霜ふり月、

△けさはまた朝おく霜の深さにて名にたふ月もまづ知られけり

△風寒み霜ふり月のそらよりや雪げと見ねてくもりそむらむ

△山風を雪待月といひなまし音はしぐれてふらぬくもりを

△しらず來てよもの宮居の神樂月立つ榊葉の音のさやけさ

湯臺叢話（其四）

谷津直秀

十 世界を廻つて來た一人の醫者が英國の病院で手術の際看護婦が針と糸をわたすたびに醫者がサンキユーと云ふのに驚き且つ感心したといふ事です此美風は何れの國の人よりも英人に最も善く發達してゐる樣です。

十一 今ニユーヨーク市の大學校の總長をしてゐるフインレーが或る時の演説中に「カレツヂの教育とはカレツヂ四年間に學んだ事を忘れた後に殘るものを云ふのだ」と云ひしましたが實際さうです

十二 米國の慈善家の或るものは貧民窟から女の兒を連れて來て、清潔な衣服を與へ宮殿的の生活をさせ、音樂などを教授して歸す例が少くありません。然し其中の多くは元の境遇に調節することが出來なくなつて、其兒に取つては却つて不幸の源因となる事があるそうです。どんな境遇をも樂む修養のない以上は技藝は人生にとつてさほど大切なものでも有りますまい。

十三 今から四十五六年前英國人の大部分は眉を顰めて「我國にはダーウヰンほど危險な人物はあるまい」などと云つて居るとき、ジエネパ大學の有名な博物學の先生のカール、フオグトも矢張進化論を主張し諸方で講義をして歩きました。ドイツの或る小い村で小學校を貸りて人類進化の順序に就て數回の講演を開いた時人民の反對するものが騷動を初め、外より窓のガラスを破り大小の石を抛げ入れた。フオグト平然として講義を續けて居る時一の石が彼の目先をかすつて机の上に落ちました。彼は少しも驚かず、其石を手にとつて聽衆に見せ、大聲に「昨晩は此處でドイツでは餘程以前に石器時代が過ぎ去つた樣御話ししましたが、今日も猶其時代にあることは悲むべきことである」と云つた。其勇氣には聽衆も一驚を喫したそうです。

講壇

現代婦人の覺悟

海老名彈正

△混沌たる思想界

現代の日本には樣々なる風習がある。米の風も入れば英の風も入る、獨の風も入る。昨日彼に行はれたものは今日我風となつて居る。從つて中には隨分異樣な風習も見える。歐米ではクリスチヤンは一番健全な善い部分を代表して居る。殊にプロテスタントは一番善い所を代表して居る。殊に長老、組合、バプテスト、メソヂストの諸派の如きは中流階級を集めた健全なものと思はれて居る。然るに日本に於ては其健全なるものが中々入り難いと云ふ狀態である。之に引き換へて露西亞、佛蘭西あたりに流行する一種の文學は非常な勢で入り込んで來た。此等の文學は彼地では基督信者には嫌はれて居るので、遂に頽廢と名けられた位である。其思想が我國には潮の如く襲ふ。而して生意氣なものばかりでなく、心ある者迄が之にかぶれて來た。かくして女にも亦昔ながらの風を棄て、まるで違つた事をする。男子に至ると實に甚しくて御話にならぬ、恁うなると同氣相求むるとでも云ふか、我國の思想界には希臘本來の風、羅馬本來の風、又佛國西本來の風ロシヤの反動的の氣風が何處となしに吹きすさんで居る。こんな事よりして彼と此と同情同感になつて落ちて行く所は非常に恐しい。殊に男女の間と云ふものは何とも云はれない。

△訓練の足らぬ國民

勿論或る一部には惡くないものもある、けれどもおしなべて見ると訓練が足らない爲に色々の事をして居る。彼等は神道で訓練されたか。否神ながらの訓練は足らない。平安朝の文學は日本文學の寶となつて居る。けれども源氏や枕草紙などを親子揃ふて讀む譯には行かぬ。平安朝の文學は訓練のない日本人の性質を善く現はして居る。佛敎が入つて善くなつたか。佛敎は獨身を敎へた丈である。何程男子の風を清めた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ものやら分らぬ。纔に儒教が來て男女間題は注意されたけれども、其注意たるや男女七歳席を同ふせずと云ふ樣な極めて狹い壓迫的の教訓に過ぎない。クリスチヤンから見ればまだ〳〵野蠻の風を脱せぬ。昔江戸は風儀の惡い所で地方から武士が出ると皆腐敗させられた。當時の江戸はありし昔のバビロンの面影を示した。けれども人は恬然として怪まなかつた。取り分け腐敗したのは德川武士である。維新の際幕府の旗下が薩長の軍に向ふ事の出來なかつたのはこれが爲である。それなら薩長の改革した天下は淸くなつたか。今殘れるものは怎うか。現今になると或る一面は寧ろ甚しい。昔の如く今は格式に依る道德上の權威がない。而して腐敗に腐敗を重ねて行く。

△日本の男子を害ふ一廓

腐敗の源因は色々あるが一番日本の男子を害ふ一廓がある。と云ふても吉原や洲崎を指すのではない。之は餘り下等で數ふるに足らぬ。然るに彼の藝妓なる者は中々有力なるものである。而して此東京には有ゆる方面に蔓延して居る。而して之に關係して生活する者は少くとも東京に一割位ある。現代の心ある者の戰はねばならぬのはこれである。雜誌や何かを見るとスヰートホームとか何とか云ふけれどもそれは皮相である。位を擇ぶか、金を擇ぶか、そんな事でスヰートホームも何もあつたものでない。如斯は自ら禍を招ぐ者である。現代の女子は戰はねばならぬ。戰はざれば美しい家庭は持つ事は出來ない。藝妓の如き者が橫行して居る樣では家庭は淸まらぬ。夫を害ひ、子を害ふ樣なものが公に許されて如何なる所にも出入すると云ふやうな事で怎うなるか。立派な奥さんの步く時、一方は從者を從へて傲慢無禮にも堂々と車上ゆたかに見下して行く、これは實に淑女の許す可らざる事である。さう云ふ者が許されて居る間は日本に淸い家庭はない。あるなら其は特別なものである。神に充された者なら出來る。けれども時としてはそれすら危い事がある。それなら怎うするか。

△美を以て藝妓と爭ふか

美を以て誇るか。美は女子の大切なる持物であつて、之は發揮せねばならぬ。貴婦人などがそれを以て花柳界の女子を制せねばならぬと考へて非常に力を盡して、美は花柳界にあらず我々にあると誇る。それも必要かも知れぬ。けれども一種の美を以て爭ふなら、先には中々餘裕がある。墮落せる下等社會は廣い。日本全國の腐敗せる中に美人は澤山ある。其美を探して東京で磨いて、貴婦人と爭ふなら何でもない。彼等は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

美を發揮する丈で外に何にもいらぬ。親に仕ふる事も、夫に盡す事も、考へなくとも善い。其等と爭ふのは人の妻たり母たる者の寧ろ難しとする所である。美は棄てゝはならぬ。けれどもそれで爭ふなら間違である。それなら精神で行くか。

△江戸時代より養はれたる意氣

彼等にも一種の意氣がある。氣慨がある。男子が捕虜になる一種の氣合、何を棄てゝも思ふ人に盡すと云ふ意氣がある。彼等と雖利己ばかりじやない。髮を切つても、着物を質に置いて襤褸を着てもやると云ふ意氣がある。これ實に花柳の間に昔から養はれた精心である。故に若し淑女にして善い着物を着たい、ダイヤの指環を欲しいと云ふ樣な事ばかり考へて夫にせがみ、或は父にせがんで居ると云ふ風であるならば、婦人は金のかゝるものだ、外に能のないものだと思はしむるかも知らぬ。然うなると或は勢を彼に得さするかも知らぬ。彼等は善い物でないが油斷すると氣合で負ける恐がある。或男子が彼等に意氣があるなど〻思つて行くともつと欺される事が能くある。其を考へれば可笑しくもあるが、兎に角自分の事ばかり考へて居る樣な事なら彼等に及ばぬ。怎うして彼等の意氣をも壓するものがなければならぬ。夫と賴む人の爲には命をも抛つと云ふ精神がなければならぬ。死んでも恨まぬと云ふ精神が必要である。人格を以て凡てを抛つ心がなければ戰には勝てない。然う云ふ者がないなら男子の心は奪はれない。故に現代の女子はあるが中にも、殊に義氣に富まねばならぬ。

△我にありて彼に無き物

而して淑女諸君は彼等の持たぬ物を養ふ事が出來る。今日でも彼等は學問する。世は實に不思議なもので一時は其學校さへ出來た位の事である。あの惡い女を學校で養成されて堪まるものではない。然し其は本物じやない。これに就て思ひ起すのは或陸軍の大佐が自分の娘も學問させなければならぬ、それが無いと嫁に行かれぬと云つた事がある。それなら藝妓と同じである。學問は方便じやない。それ自身でなければならぬ。男にも然うだ。食う爲にと云ふなら學問の味は分らない、眞の學問は食はうが、食うまいが、そんな事にはかまはない。一簞の食一瓢の飮を以て甘しとせし顏回にして始めて學を好むの人と孔子は譽めたのであるが、此の如きは今や男子も知らず女子も知らない。若し學識を以てすれば花柳社會は到底及ばない。更に彼に無いものがある。それは何かと云ふと見識である。それは容易に得られぬ。花柳界にも稀にはあるがそれは寧ろ鷄群の一鶴である。彼に取つてこれよりも猶難

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いのは人品である。こればかりは如何にしても彼等に出來ない。中に品位を養へば風彩が上るやうに見える。之れは藝術である、本來のものではない。其に風彩のよいのは内の輝が外に出たのである。例へば衣服にしても品位のある女子が木綿を着れば絹以上に見える。けれども品位なきものが絹を着ると、奇麗ではあるが自墮落で何となく賤しい。着物と品位との釣り合が取れぬ。舊藩の頃金上げ武士と稱して金を献上した爲に武士の列に加はつた者がある。所が其等の大小を差した具合が何となく變で武士とは受取れぬ。所が覺悟あり、品格あるものが大小を差すと、よし其大小は剝げて居ても、何處となく善い。鎗は錆びても佐野源左右衞門は武士だと云ふ樣なものである。女子にも此品位が必要である。

△奥深き所

それよりも奥深い所にはクリスチャンたる信仰がある。他の宗教には花柳社會の女子は競ふて赴く。或寺などは殆んど彼等だけで維持されて居る位の事である。成田の不動の如き、淺草の觀音の如き、穴森の稻荷の如きは群を成して行く。けれども彼等に基督教の神を拜する事が出來るか。其身其儘にして會堂に入られるか。入り得ない計りでなく、かくするを好まない。此クリスチャンの信仰程清いものはない。我聖ければ汝等も聖かる可し。心聖からされば神を見ること能はずといふ教訓こそ有難けれ。現代の女子がクリスチャンにならぬと云ふは非常の間違である。信者にならずして米となり、鹽となる事は出來ない。淑女にして花柳界のものと信仰を同にするとは何たる事か。彼等と共に珠數を爪繰つて成田や淺草に行くとは何たる事か。クリスチャンは此に大なる使命がある。婦人は此根本に返つて、清い正しい生ける神に來らねばならぬ。而してそれより湧き來る品格を作り、それより出る見識を持ち、犧牲の精神を持ち、而してそれより流るゝ美を持つたなら、日本の社會を清むる資格が具はると思ふ。現代の婦人は此大なる覺悟を持たねばならぬ。

△男子の助

而してこれには同感の男子が助けねばならぬ。かくして社會を清むるにあらずんば世は益々腐敗する外はない。此點を見ると帝國大學の教授にも全く免れぬものがあるといふ。況んや其他の社會は推して知る可きである。而して其禍を受くるものは誰か。女子である。百の九十九はこれが爲に泣かさるゝ。實に善良なる姉が、善良なる妹が泣かさるゝ。故に我々男子は善良なる女子を助けて行かればならぬ。而して女子自らの奮起は云ふ迄もない。王政維新の時、女子が風を聞いて起ち

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

しが如く、起たねばならぬ。決して華奢の風などはしては居られぬ。然らずんば幸福は得られぬ。如斯覺悟の上には天地の生ける神が祝福し給ふ。此通り腐敗せる社會にすら神の恩惠は溢るゝばかりである。況んや神の爲に奮闘せんとする者に神の祝福し給はぬ筈はない。女子たるもの大覺悟なくてはならない。若し夫れ奮闘しないならば女子は何時までも幸福なる家庭を求むることを得ない、何時まで血涙を流して暮す外はない。

祈禱の力

村田勤

△誠心誠意の人

祈禱とは何であるかと云へば意を誠にし、心を誠にする事である。意を誠にし、心を誠にするには祈禱に如くものはない。哲人エマーソンの叫の中に人間が唯一人居る時は眞面目である。けれども人が一人入つて來ると僞善者となる。と云ふ言葉がある。過激な樣であるが味ふ可きものと思ふ。一人で居ればありの儘で善くも惡くも其人として僞はない。けれども他人と話す時には音聲を注意して、正しい、奇麗な言葉を使はうとする。卽ち其處には技巧があるけれども一人で居る時には賤しい儘、正しいなら正しい儘に表はれる。其時には自分は唯一人でない。怎うするか恁うするか決心の動機迄も鏡に懸けて見るが如くあり〳〵と分る。故に義人の腹をも見通し給ふ神があると云ふ意識が浮ぶ時には眞面目に本氣にならざるを得ない。神を信ずる事程人生に於て眞實なるものはない。眞實が最後の勝利者であると云ふ事が我々の根本の條件である。此世をごまかして善いものと考へるなら澁面を作つても嚴にしても何にもならない。此天地宇宙の神と交つて弱い者は弱い儘、汚れた者は汚れた儘を出して神に依つて復活し神に依つて鍛煉されると云ふ、其時程強いものはない。併し誠心誠意の人はクリスチヤンばかりではない。平野次郎の如き身は國事に奔走して日も足らざりしに拘らず、却つて錆鎗に刺された人もある。彼は才智を以てすれば西郷や木戸の敵ではないが、併し眞面目の一點に至つては優るとも劣らない。又彼の梅田雲濱の如きは誠心誠意の塊である。誰も口吟むあの妻臥病床兒泣飢と云ふ詩の如き善く其性格を表はし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て居ると思ふ。西郷が彼を訪れた時の事である。夫婦仲も好かつたものと見ゑて、妻を喚んで西郷に引き合せた後、己には金が無いからとて簪を買つて酒を買はせ、快く飲んだと云ふ。如斯人は基督を知らずとも神は宿る。其生涯は他の烈士よりも一段鮮やかに神を交へたと思ふ。私は獨りクリスチヤンばかり神の惠を受くるのでなく正直の頭には神宿ると信じて居る。恐れ多い事であるが　陛下の御歌には折り〳〵神の御名がある。僅三十一文字ではあるが其態度を拜し奉るに深い意味のあらせられての事と思ふ。其處には確に祈りする御心が美しく表はれて居る樣に思ふ。彼の兒玉大將は話をすると智慧の塊の樣である。深い學問をしたのではないが、實に賢い人だと新戸部博士をして嘆せしめた位である。然るに其兒玉大將が日露戰爭の時、或朝ふと見ゑなくなつた。怎うしたのかと探がして見ると、陣幕に包まれた軍隊を遥か離れて旭の前に靜に座して居られる。何を遊ばされて入らしやつたかと聞いた所、大將は祈をしたと云はれたと云ふ。又日本海の海戰の報告書には天祐を信ずるによると記してある。これは文章を飾る積ではない。當路の人に聞けば、無論そんな暇は無かつたと云ふ。さもある可き事である。其證據には東郷大將が日本海々戰の話をする時には何時も天祐と云ふのでも分る。これ我國の陸海軍は強くはあるが、一國の運命を肩に懸けて立つ時は、神に念ぜざるを得なかつた爲であると思ふ。人は常に眞面目でなければならぬ。底の底迄見通す神に交はる覺悟がなければならぬ。

△活動の源泉

又祈禱に依つて小さい己を棄て、天地の己に接する事が大切である。小さい者を棄てゝ行けば永い生涯の間にも云ひ爭ひをせなくとも濟む。よし稀にやる事があつても、神を信ずる者は直癒る。彼も此も疑念を挾まず元通りになる。そこは神を信ぜざる者とは違ふ。自己を引き出して神の前に立たせて見ると彼が惡いか、自分が善いかすぐ分る。如何にも心を靜めて神の前に其裁判を仰ぐ時には許させ給へと祈らさるを得ぬ。朝早く起きて、眞闇の中を旅すると何も見えない。而して木を怖いものと思つたり、薄のざわ〳〵するに驚いたりする。けれどもほの〴〵と東の空の明け渡る時には何もかも笑ふ。己を責め、己を棄てゝかゝれば誤れる怒も恨も散じて了ふ。幼い者が神の前に出て我と云ふ狹き心を棄てゝ大なる神の命に委せる。然うすると身は輕くなる。垢を落した樣になる。從つて活動は期せずして至る、活動の泉となるものは祈禱である。故に祈禱は言葉を換へて云へば神に交つて元氣を得る事である。世の中で惡い事をする人は騷がしい事を好む。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

良心の呵責が強い爲に何か麻醉させる樣なものが無いと氣がすまぬものと見えて、然う云ふ傾がある。騷いで自分の魂をだますのである。けれども君子は（殊に東洋人に於て然うかも知れぬが、）何となく靜である。家を選ぶにしても靜な所を探がし、人の家へ行つても御靜かな御住居と云ふ事を褒め言葉として居る一面活動を要するが他面には靜かな所が欲しい。深山大澤英雄を生ずと云はれて居るが英雄が片田舍から出た事は歷史の證明する所である。安房の名もない濱邊からは日蓮が出た。或は親鸞が叡山に二十年閉ぢ籠つて淨土宗より分れて別に眞宗の一派を立てた如きは靜寂の境涯の賜物である。正成は田舍武士である。笠置に召されて、以來六年、絕えず活動したが其後には三十年の靜寂がある。クロンウエルは野人である。彼はヨチ／＼と片田舍の會堂に來て牧師の說敎を聞いて居た人である。けれども其四十五歲を一期として大活躍を試みた。又源氏物語は月に光る石山寺の窓より生れた。更に宗敎家に見るに彼のルーテルはエルフルトの修道院から來た時彼は神に祈り斷食も二三日に及んだ、人が怪んで其室を覗て見ると中にルーテルが氣絕して居たと云ふ。ルーテルの大活動は三年の間深く神に交つた爲である。けれどもウオルムスの大會に出づるや初めは意氣が沮喪して居た。ルーテル贔負の人も氣が氣でなかつた。而して翌日迄の猶豫を願つて退いた。所が其日になつて見ると樣子がまるで變つて、齒切れの善い、遠慮の無い事をどん〳〵と遣つてのけた。その元氣は密室から出たのである。イエスは或る人からは神と迄考へらるゝ方である。けれどもイエスは三年の活動に對して三十年の靜養があつた。而して其生涯は祈を以て初

め、祈を以て終つて居る。これ程の偉人にして此程の準備を要するかと思はしむる程、事ある毎にイエスは山に入つて祈り、而して力を得られた。殊に敵に捕へらるゝを知り乍ら、ゲッセマネの園に祈られた其祈は誠に苦しみの極である。其折にはヨハネ、ペテロも伴はなかつた。而して山の奥深く入つて、祈りつゝ遂に斷乎たる決心を得られた。かくて十字架上に懸けられ乍ら、彼等を許し給へ、其罪を知らざればなりと祈り給ひし迄、エスの生涯には祈りならぬものはない。エスは人間の姿をして見せた方でない。我々と同情同感になれる方である。其方が磨いて磨いた上句極點に行つた時、神性が表はれたのである。我々は鍛煉せねばならぬ。ベースボールでも練習をせないと如何なる勇士でも怪我すると云ふ事であり、ケーペルなど云ふ音樂家でも遣る前には幾度も稽古すると云ふ話である。我々は鍛煉修養を要する。祈禱でも衆と共にする祈禱も大切であるが、同時に我一人で（五分間でも善いから）祈る時を持ちたい。さらば其五分間は二十四時間に於ける活動の源となる。日本の基督教は着實になつて來た。我々は教會の則手本となつて日本民族の永久の安寧を保つ偉大なるものを立てねばならぬ。之に依て最も嶄新なる國民性の表はれて聖の聖なるもの、純の純なるものとなつて、我々の凡ての方面に及ぼしたい。エリヤに倣ひ、モーゼにならつて輝かねばならぬ。人の噂ばかり氣にかけると嫌であるけれども自分が神の前に出でゝ齋戒沐浴する時に其人の顏には輝がある。（文責記者）

ゆきあたりばつたり集

在英　内ケ崎作三郎

十九　ライン河上歡呼の聲

エギリスからベルジアムにゆくと色々な點に於て相違があることが、直ぐと旅行者の眼に映ずる、人種はフレミッシュでラテンの血を承けてゐぬが、宗教が天主教であるし、國語は重に佛語であるし、建築や、風俗や、習慣は著しくフランスの感化の下にあるから、長らくアングロサクソン文明の空氣の中に住み慣れた僕にとつては珍しくもあり、また何となく物足らぬ感じもあつた。ウオータローの古戰場をもみた、大博覽會をもみた。産業及び商業の國としてのベルジアムは——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

微小なるベルジアム――第一等國の列に入つたとうぬぼれて居る日本の風上に立つとは百も承知してゐる。メーテルリングの樣な文豪の生れた國なるとも知つてゐる。商業大學は世界の屈指のものであることも知り拔いてゐる。有名なる學者のあることも聞いてゐる。されど僕は何となく物足らぬ感じを抱かせられた。恐らくは僕の趣味に合はぬ點があるからでもあらうか。夜の十一時半にブラッセル市の北停車場から急行汽車の一室に入つてドイツはライン河へと志した。室内の男女老幼悉くドイツの人々。彼等のキバ〳〵した態度と元氣ある會話は僕に少からざる快感を與へた。短かい夏の夜はうたゝねの間に過ぎて、ほの〴〵明けにケルンの停車場に着いた。朝食を取らうと思うて、食堂兼待合室に入つた。五六十人の人々いづれも忙はしそうにパンを嚙り、珈琲を飲んでゐる。僕の向側の食卓に新聞記者の一群ともみゆるのが陣取つてゐた。そのうち詩人らしい容貌の一青年が早朝からもうビールの効驗著しく、何かの詩を大聲に怒鳴り出して、仲間の制するをも耳にしない。エギリスから來た僕にはいかにも紳士らしくない態度としか思はれぬ。されども同時にドイツの國の境にはいると、ベルジアムとは丸で違ふ生命、然り潑溂たる元氣が何處にも此處にも橫溢してゐる感がした。あゝドイツは新興の國民である。出來上がりつゝある國民である。未成品である代り、未恐しい人種であるとも見ることが出來やう。とにかく僕が十週間程ドイツを旅行して、見たる感想より、この新聞記者らしい男の元氣振りを除くことが出來ぬ。好漢冀くは健在なれや。やがて、名高いケルン大寺院の影を踏んで、年來あこがれたラインの巨流の岸に出で、大形の河蒸汽船にのつて、大寺院の尖塔を顧みつゝ、降雨後混濁したる大河を溯つた。歷史と詩歌との聯想に富む名川の感銘は別に長文を要するから、此處には述べぬ。たゞ折々僕等の船が出合したる船に修學旅行の途にあるらしい小學兒童が數百人も乘つてゐて　旗を振るやら、拍手するやら、帽子をかざすやら、それは〳〵大騷ぎをして、僕等の船に會釋したことであつた。かゝる事はその日の午前中にのみ二三回あつた樣だ。あゝこの偉大なる勃興國民の後繼者の元氣ある光景は如何にわが血を躍らしめたことであつたぞ。ラインは古い古い河である。幾多の王國と帝國とはこの兩岸に興り、且つ倒れた。幾多の英雄はその流れを橫ぎつた。シイーザーもその一人である、シャーレマンもその一人である、ナポレオンもその一人である。ビスマルクもモルトケもこの數に漏れぬのである。幾多の詩人はその光榮を讃美した。ハイネはローレライを歌ひ、バイロンはラインの乙女を詠じ、ユーゴーは世界の名川巨流の精粹を集めたるものとの頌を呈した。幾多の佳人と騎士と

は香ばしい物語をその絶壁の上に聳ゆる古城廢墟の中に遺した。而して今や新興大國民の後繼者來てその胸の上に歡呼するを見る。ラインと人文との交渉は羨ましい過去を有するのみでなく、まだ〳〵望みに滿てる將來を有するらしい。

二十　氣持よいドイツの少年少女の印象

日本の留學生にしてドイツに在る數は約四百內外であらう。その割合にドイツの眞相が日本に知れてゐない。一二の著述はあるが、餘り專門に偏してゐるから、存外多くの讀者を引きつけぬ樣である。中村吉藏君が歐米印象記を出版されたさうだ。これは慥かに讀み答へのするものだらうと想像する。しかしこれまで日本ではいづれかといへばドイツの惡口を主とする旅行記が多い樣だ。澁川玄耳氏の「世界の見物」は英米のことは割合に公平に觀察してゐるが、ドイツのことは無茶なことが書いてある。ドイツからエギリスを見物に來た友人の中でも、ドイツの惡口を聞かせて居つた人の無いでもなかつた。されど僕自らの經驗は是等の人々に同ずることは出來ぬ、僕の觀察する所によればドイツは中々好少年と好少女とが多い、好人物も多い、好主婦も多い、好青年も多い。「好」といふ形容詞は「お人好し」といふ意味ではない。「好」のうちには「豪」とか「雄」とか「偉」とかいふ意味をも含ませてみたい。此處では少年を主として書かう。

僕はラインをマインチまで遡り、ハイデルベルグとフランクフルト、アン、マイン等を經て、一先づマルブルグに落ちついた。フランクフルトは急いで見物したが、市中央部の名跡に富む所に二三の少年がゐて、說明をしてゐた。貧しい子供達が小遣錢をとる手段であるらしい。それでもいらぬといへば惡い顏もせずに去つてゆく、賴めば叮嚀に說明する。僅かばかりの心づけをやると、よく御辭儀をしていつた。マルブルグには四週間滯在した。宿に二人の子供がゐた。長女はエルフリーデとて十位の奇麗な娘、長男はエミユールといふ八つか九つの兒の二人とも最初の二三日は外國人を遠慮してゐたが、程なく仲好となつて、夕食後は折々僕の室に來て、遊んだものだ。僕の會話の相手になつて、どれ程僕の語學の進步の手傳をしてくれたことであつたぞ。僕の滯在中夏休みの一部分をケルンの親類の許に送るとて二人共留守をした時は何となく淋しい思ひがした。所が僕がマルブルグを立つ數日前彼等は俄かに歸つて來た。喜んだのは兩親のみでなかつた。八月一日の朝僕がベルリンにむけて出發した朝は二人とも僕を見送るとて、不斷に似ぬ早起をした。母親は中食の辨當を拵へて外套のポツケットに入れてくれ、僕が入口を出ると窓から

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

顏を出してハンカチーフを振つてゐた。老いた父は僕の一つの手提げをさげて鐵道馬車の停車點のある街まで送つてくれた。エルフリイデとエミユールも甲斐々々しく隨行して來たエルフリイデにはこれから音樂を稽古し、立派な淑女となるべきこと、エミユールには勉强して一角の人となつて日本を見物に出かけて來るべきことを言ひ聞かした。そのうちに午前七時の馬車が來たので、僕は態々見送りに來て來れた一人の日本の友と共に馬車に乘つた。父子三人は菩提樹の並木の陰に立つて、馬車が街角を曲るまで手を振つてゐた。いふ迄もなくエミユールは帽子までも。

ハイデルベルグ滯在中の感想を書き遺してはならぬ。同地では吉野君その他に案内せられた。名高い古城の下をネッカー河が流れる。對岸丘陵の中腹にビスマルク塔が立つ。僕等一日その見物に出かけ、歸途は細い近道を拔けて降りたが、道すがら五六名の田舍の子供達に逢つたが、向ふからターハ〳〵といつて往つたターハはグーデンターハの省略で「今日は」の意である。見知らぬ外國人に對しても愛嬌を蒔りかくるドイツの田舍の子供の氣風は容易に馬鹿にされたものではない。かゝる事は後でマルブルグの田舍道でも實驗した。百姓の子供達が五六人草花を摘んでゐる側を通つたことがあつた。此度は此方から先に出でゝ「ターハ」をいつたが、矢張「ターハ」と應じた。歸りしなに又その道を通りたるに、五六歲の少女が摘み取つた花をかざして僕に會釋した。マルブルグに古城がある。その昔しルーテルとツキングリイとが宗敎改革に關する打ち合はせをした名跡である。城內の庭から四方の遠望はまことに見事である。僕は幾度となく城山に登つた。番人に六つ位の子供がゐる。何時も一人で庭に出て遊んでゐる、石垣の上を足許危うげに驅けてゐることもあつた。僕が行く每に珍しそうに僕をみつめた「ターハ」といふと「ターハ」と答へて、また石垣の上を驅けて行くのであつた。凛々しい所のあるまことに可愛い兒であつた。

ベルリンではシャーロッテンブルグに一ケ月程滯在した。少し落ちつくと、近所の子供達から日本の郵便切手をねだらるゝやうになつた。その賴み振りは面白い。ハタ〳〵と驅けよつて來て輕く御辭儀をして、切手を下さいませんかと聞くのである。勿論當座に持ち合はしてゐぬから、この次に持つて來てあげるといふと、また御辭儀して驅けてゆくのであつた。

菊の香や奈良には古き佛達　（芭蕉）

秋の空

無繫生

古へより秋の空を高しと云ふ。これ四季の間にありて、殊に高しとの謂ひにあらずして、其晴空一碧、凛として犯し難きを仰げば、人は今更の如くに天空の高きに心惹かるればなり。何時にても空を仰げば之れを高しと觀ずれども、世事の倥偬と地上の繁茂とに心奪はれて、やゝもすれば天空を仰ぐことなきなり。春霞の棚引く頃は空合おぼろげにて興趣起り來らず。夏雲奇峯多く、人これを異として空明を仰ぐことを忘る。夏の夜半星光を仰ぎて、其燦たる天美に心躍れども、白晝炎熱に支配せらるゝ頃は、多く空を眺むる餘裕なし。冬日となれば地平線上より半空にかけて一帶の灰白色を呈し、何となく不活潑なる光景を見るのみ。さらぬだに寒風肌に觸れて、寧ろ煖爐の心地よきに如かず。然るに秋となれば農夫は一年の收穫期に達して、終日野外を働きの場所として勇みいそしむ。無事に苦しむ貴人は獵銃を肩げ、獵犬を嗾して、うらみなき禽鳥を獲、驅け走る野獸を射んとして山野を跋渉す。又物質上の收得のためにあらで、唯慢然たる散歩を試みて秋の心に浩然の氣を呼吸せんとする者も少らず。野外生活は實に秋の特色なり。かくて人は知らず／＼我が住居する家の屋根の低きに壓せらるゝ心地し、おのづから天地抱擁の高き空を慕はしく思ふに至る。かくの如くにして秋の空は人を誘ふて、其思ひを天の高きに登らしむ。

十月の小春日和とは久しくわれらの耳にする所なり。熱せず烈しからぬ中正和平の日光は極めて湛靜に六合を遍照し、風は枝を鳴さず、地は塵を揚げぬ眞晝間秋光にわが身を包めば、心は何時しか宇宙の間に飛び思ひは遠く懷古の寂し味に熟す。此時意馬心猿はわれになし。此時煩悶厭世はわれと沒交渉なり。身を天地の温まりに托し、心を靈明の城に遊離せしむ。圓滿和煦の美祿に醉ひ、妍陽快暖の大氣に觸れて、われも亦これに融和鎔解して、液化し、氣化して秋の空に彌漫せん心地す。此時未だ靈と肉との區別なく、至純至澄の生活はまことに此處に成就す。

秋日短かくして曛景漸やく逼り來らんとする時、熙光既に斜めに、金光樹梢に飄搖す。平和は落陽と共にます／＼深く、恪靜は暮靄と共にいよ／＼心地よく、寂寥は其粹を集めて極めて純潔なり。黄金色の斜暉　琥珀色のみなぎり渡れる大空も何時しか薄き黄昏の衣にまとはれ、夕榮えのよそほひにやすらふ秋の夕暮れを誰れか悲しと云ふ。靈のさゝやきに耳を傾て、語らず言はずその聲きこえざるも、全地にあまねき神の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御言葉をかしこしと思ふは、げに此時にあり。寂寥の彼方に和樂あり。失意の中に希望あり、弱けれども強く、貧けれども富み、ほまれなきもよろこびある、これ皆秋に於て響く靈界のおとづれなり。

獨り子の教育に就て

▽子女教育に對する母の務（其十一）

海老名みや

△一個のお菓子から受ける刺戟と教訓

前々號から前號に亘りて、子供に同情心の教養を與ふる事の大切なとを申しましたが、獨り子には尙更此點に心を用ひて育てねばならぬと思ひます、三人五人七人と兄弟の多い中で、もめつもまれつ育ちますのと、只一人が一家全體の愛を己れ一身に集めて育つのとは、それは大變な相違があると思ひます。例へば此處に一個のお菓子があります、獨り子なれば無論其菓子は其子に與へられて、貰ふものも與ふるものも、只當り前のこととして何の不思議もないのでありますが、それが三人五人と大勢の兄弟があつたとしますと其一個のお菓子は、與へんとする親にも、受けんとする子供等にも、尠なからざる刺戟と敎訓とを授ける材料となるのであります。先づ一個のお菓子は、これを三分又は四分して皆んなに與へねばなりませぬ。各々我分の多からんことを希ひつゝも、我先きにと、大きいのを取るは耻かしい事、又宜しくない事であると知つて居りますから、少しく大きくなりますと、大きいのを取り度い情を制して、小さいのからとる。斯樣なことは大人には何でもない事ですが、子供には大奮闘を要します。斯くして又一面には、何でも自分一人で食べるより共に食するのは樂しいものであるといふ事も知ることができます、宅の九才になる女の子は小ない時分から、姉の不在中に何を遣りましても、お姉さまと御一所にと申て決して獨りで食しませぬ。多分姉と一所の方が愉快でおいしいからであらうと思はれます。其他の小供も皆他の子と一所に貰ふことゝきめて居ります。この樣に幼少の時から何でも自身獨りで專有するものでなく、皆各々に分つものだといふ稽古は、每日々々幾囘となく致して居りますので、何となく自身の分を貪る樣な卑しき

氣風も顯はれないではありませぬが、兎に角此分つといふ事を知り、且つ行ふ事は、實に貴い實験だと思ひます。又或時は三人なら三人に平等に分つ事の出來ないことがあります。或は小さいものに多く、大きいものに少く、又は大きいものに多く、小さいものに少く、臨機應變物によつて、場合に應じて、小さき胸をおごらせたり、苦悶したり、獨り子の夢にも知らない實験を味はつて、家庭に在りながら社會の狀態の一部分を知り、其の生活の初歩を始めつゝあるのでございます。

△自己中心になり易い獨り子

これに反して獨り子は、お土産は、我獨りで頂くもの、一つしかないものは必ず自身が專有に歸するものと信じて、何の競爭もなく、苦闘もなく、のんびりと大様に育ちます代りに、ともすれば自己中心になりたがる癖ひがあります。どんな好なものでも、人に分たねばならぬとか、自分は少しをとつて人に多く與へるとかいふ樣なことは、實験し練習したことがありませぬからたまさかそんな機會があつても、強ち人情といふではありませぬが、何の氣もつかず、無頓着に過して仕舞ことがあります。なほそれが嵩うじて來ては愈々獨り天下の勝手氣まゝの若樣お孃樣となり濟して、世の中は何も彼も我爲に出來てるものゝ樣に心得、思ふがまゝにふるまひて、人に迷惑がられいやがられ、とゞのつまりは自分自身不平不滿の人となつて生涯を過まつて仕舞ます。獨り子に限つて斯樣な我儘者が出來るといふ事もありませぬが、先きに申した樣に境遇上他人を顧るの機會少く、與ふるよりも貰ふ事、人の爲にするよりも我にせられることの習慣多き爲め、知らず〳〵の中に自己中心になつて仕舞ふのです。それでこの獨り子に對しては他を顧みるの機會を多く與へ、自身のものを分ち與ふる習慣をつけるやう、心を止めて育てねばなりませぬ。

△玩具の教訓

例へば玩具の如きも、獨り子には親も珍らしいものを見れば買つて遣り度なり、又他人も一寸した贈物でも其家の大事の大事の獨り子に持て行けば、家中の喜びですから玩具を買つて行くと云ふ樣な譯で、何時の間にか樣々の物が集ります。左樣すると子供は多くのおもちやに倦きて、遂ひ粗略にして仕舞ふと示ふ事になります。只一時其子を喜ばせた許りで、結局其子の教育の上には、何の益も與へないのみならず、却て性格の上に良らぬ影響を殘すに過ぎませぬ。して見れば如何するか、それには良い方法があると思ひます。おもちやは子供の大事の財産です、子供自身もこれのみは我れ自身のもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又我思ふ様にすることの出來るものと心得て居ります。それで其財産であるおもちやを以て博愛慈善の心を養ひ、實行せしめる様にしたいものであります。例へば出入の車夫の子供がこの頃病氣だそうだが、おもちやも何も持つて居ないで可愛相だから、お前のおもちやをお見舞にやつてはどうだと申ますと、子供は必ず喜んで承知するものです。若しも傳染病でなかつたならば自身で見舞ながら其子の宅を訪づれて手づからおもちやを與へさせます。すると貰つた子供は非常に喜ぶに違ひありませぬ。其喜んだ様子を見聞き致しますと與へる事の何んなに幸であるかを知つて、其慈善心は大に發輝さるゝ事となり、自ら進んで與へる様になります。此様におもちやに限らず何でも自分の物を分ち與ふる様に、或は孤兒院とか又は個人關係ある人々に同情を灑ぐ様に注意致しますと、そこは獨り子の大様に育つた丈け心も寛たりとした中に、いひしれぬ優みを帶て、慕い立派な人格を作ることが出來様と思ひます。もう十三四歳にもなつてからでは間に合ませぬ。親の眼には何も彼も無意識無意味と思はれて居る幼年時代、案外小供は

其時々に、明確な意識と意味とを以て居りますから、親たる者は子供を成る可く鄭重に、他愛ないと思ふ一言小句、小さき一行にも思ひやり、又心に留めて子供に接する様にして、凡てのことをよい方によい方にと導いてやることが大切であります。二葉の中に培ひ水そゝいで養ひませんければ、到底よい花は見られませぬ。

△友達の撰擇

今一つ獨り子を育てるに付ての困難は友達で御座います、兄弟姉妹大勢一所に育ちますと、皆年齢に從ひ夫々自分で遊び仲間を作らへて行きますから、餘所からお友達を招ぐ必要はありませぬ。それは親々にとつて實に仕合なことだと思ひます。之に反しまして獨り子はどうしても誰か遊び友達を作らへてやらなければ可愛相です。又始終大人ばかりを相手にして居りますると、妙に大人びて、子供の性格を傷なふ憂があります、と申して誰でも年齢相應の人でさへあればよいと申て、隣り近邊の子供とぞろ〳〵行きかひする事は實に危險千萬です、第一の危險は傳染病で、若し其中の一人に百日咳にでもかゝつた子供

があるか、又はトラホーム其他眼に見えぬ傳染性の疾あるものがあれば、子供は何の容赦もなく手をとりあつて接近するものですから、何時の間にか其疾病を受るものであります。幼稚園小學校なぞでも此恐れはありますが、近頃は嚴敷取締りますから餘程安全だと思ひます。が、普通の家では却てうつちやらかしの事がありますから危險です。この點丈けでも近所近邊誰でもござれと放任して遊ばせることは、斷じていけませぬ。又肉の病氣以上精神上に知らない間にどんな樣々の惡感化を受けないとも限りませぬ。之は一寸眼に見ゑない丈尚恐ろしいと思ひます。あまりに酷の樣ですが、母たるものは情に負けない樣にしなければなりませぬ。それには如何するか隣家でも家と家と交際して居て互に子供の注意も出來る内なれば無論差支へませぬ。もし離れて居ても家と家と親しく交際の出來る内で、御互に親と親とがよいと認めた子供と、往來する樣にして置き度と思ひます。そうすれば、萬一これはと心付く事がありました時互に相當に注意も致すとが出來ます。又親たるものは人の子我子の區別なく、親身に子供の事を思つて、常に注意をす可きだを思ひます。又親しく往來する子供の親達は雙方の子供の性質や身體のことも互に能く呑込で居て、互に監督をする位にあり度ものだと思ひます。そうすれば子供も愉快に遊ばれるし、親々も安心だと思

ひます。これは獨り子のみに限らず大勢の兄弟があつても他より遊びに來ることはあるから皆斯樣な工合に致したら宜からうかと思ひます。要る處獨り子は自己中心の氣儘者にならぬ樣、一家にあつては親を始め老人や召使に其他成る可く廣く常に人に同情を持ち少しの物でも分つといふ習慣を付ける樣育てる事が大切だと思ひます。

次號には

△子供に小遣を持たすの可否
△何歲位より持たすべきか
△其取扱ひは如何すべきか

の問題に就て申し上げて見ようと思ひますが讀者諸姉のうちからも御實驗談を戴度と思ひますから誰方でも御遠慮なく御寄書下さるやうに御願致します。

イマヌエル行

田澤藤郎

イマヌエルと云ふたら君はテッキリ外國の話位に早合點するかも知れないが、實は北海道は後志の國利別村の一部で今より廿年程前からクリスチャンの團體によつて開墾された俗

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に耶蘇村と云ふ處なんで、國木田獨歩の所謂、馬鈴薯黨の開墾地さ、然し現今では別にクリスチャンばかりと云ふわけでない。其處に内務省腰辨のペテ公が取調べの必要があつて、年若い案内者と僕と三騎、轡を並べて出掛けたのだと思ひ給へ、かく申すヴキニ公が隨行を辱ふするの光榮を有したわけさ。

時は九月二日の朝まだき（と云ふて朝飯が濟んだのが既に八時）篠つく雨を事ともせず、打ち出でたる天晴武者振、と云ひたいが、さてペテ公その日の出で立ちは緋絨の鎧ならぬ白毛布をスッポリかぶつて、おまけに蝙蝠傘を翳してる風つたら何のことはない朝鮮のお大名さ、危な相に鞍に跨つて居る所まで、漫畫家をのぞひては餘は感心する人はあるまいと思ふ。騎馬にかけてはかく申すヴキニ公の方が一日の兄だからね。

「オイ、ペテ公しつかり賴みますせ、イカンよ尻が泳でるぢやないか、オット危ぞオッこちて怪我でもして見給へ猪苗代あたりに時雨が降るわ」

ペテ公、なんとか云ふ積りで振り向ふさするが、何がさておん馬の上では自由に行かぬ（どうも初學者はミジメなもので）

「どうだ首が廻らんてのは借金に攻められる時ばかりぢやない樣だてハヽヽヽヽ」

ペテ公も苦笑を禁ずる能はず、果は大笑ひに成つてしまつた。どうも門出から賑かだ。

馬はテク／＼八雲の町を過ぎ遊樂部川に沿ふて進んで行く一寸前に云ふのを忘れたがペテ公は馬に乘るのは臍の緒きつてから是でたゞの二回、その一度も前日のこと牧場で神經衰弱の駄馬をひつぱり出して、一二丁乘つたと云へば乘つた、マア乘せて運ばせたと云ふ迄のことさ、で、今日も手綱を前に行く案内者の鞍に結びつけて、牛に曳かれて何とやらの風だから愈々以てたまらない。最も歸りには少々怖氣も薄らいだと見えて切りと手綱を引つぱつて居たがね、イヤイヤ、とんだ所でペテ公の棚おろしをやつてしまつたが、マア餘談は廢止おや。

ツルゲーネフの小說を讀んだ人は誰でも空漠たるロシヤの風光を想像するに違ひがない、北海道の風景は丁度それさ、たゞ其を小さくした迄の事で、壁の樣に立て居る落葉松の森や、綠の牧場に銀の樣な白樺が雨に濡れてションボリと立て居ると、牧馬がシッ／＼と其下を草を食みながら歩いて居る景色、廣い田舍道を二頭立の荷馬車を御して行く若い男、大木の切り株が其處此處にお墓の樣に殘て如何にも開墾地を思はせる樣な畑、森陰に點々たる小屋何れか旅人の眼をひかぬものがあろふか、餘り景色がよい時「いゝなッ、どうだい、た

まらないナ」と叫ぶのがヴヰニ公の癖だ、其が今日は初から連發さ。

やがて遊樂部の上流の渡場に來た、見れば假橋の如何にも危ない、幸ひ水は深くもなし、まゝよ宇治川の先陣、佐々木の四郎とばかりザンブと飛びこんで對岸に渡す。橋守の女房がギヨロツとした眼を光らして

「お客さん橋錢を」

「じよふ談云つちやいけないぜ、橋なんか渡りやしないよ」

「渡らんでも橋錢は貰ふのだよ」

「馬鹿云へ渡らんで橋錢出すんなら歩かんでもお江戸に行けらい」

ナーニ自分でも何のことだかわからんのさ「ハ、ハ、、、」ブツ〳〵文句を並べて居る橋守女房を顧みもせず馬腹をけつて急がせる、君も知てるだろうが騎者は舌をぐるりと卷いてキユツ〳〵と鳴らすんだ、同時に馬腹をポンとけると馬はトツトツと馳け出すものさ、其が又ヴヰニ公の得意の藝なんだ。歸り途だつたか、ペテ公も手綱をグヒ〳〵とひつぱつて切りとキユツ〳〵とやる、其が君、實にいやな〳〵音なんで馬が少しも動かぬ。其答さ腹がへつた雨蛙の鳴く聲とでも思つたんだうよ!!

峠を一つ越ゆるとサクルシユベの谷間に出る一二里の間、何等の變化もなく雜木が生え繁つて居る山が兩方から相せまつて、其中央に通じて居る一本道、道のほとりには一丁に一軒、二丁に一軒と人家が散在してるばかり、住めば都と云ふが、よくこんな寂しい單調な所に住めるものさね、然し家の周周に日廻草や葵などが今を盛りと咲き競ふて居る所などは一寸雅致がないでもない、人間と云ふ動物はあれでなか〳〵話せる、まんざら棄てたものでもないわい、など考へて居ると突然ペテ公の聲。

「オイ馬方」

「なにね」今迄荷鞍の上に趺座をかいて木魚の樣に丸く成て居つた馬方先生、寐ぼけた樣な顏で振り向く

ペテ公「オイ追分一つ賴むよ」

ヴヰニ公「贊成！馬方は江差の人間だておやないか、やれやれ」

馬方「おら知らねえだ」

ヴヰニ公「知ねえとがあるかい、遠慮しないでやるべしだ」

この馬方いやに遠慮深い奴で、とう〳〵歌はなかつた、併し二週間程前のこと僕が他の馬方二人と國縫と云ふ町まで騎馬で饅頭食ひに出掛けたことがある。笑つちやいけない實際だよ、其時の馬方が實に痛快な男で、よく歌つたよ其嫋々たる餘韻が空漠たる野末に消えて行くのを聞いて居ると獨でに涙が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こぼれる。追分は北海道で馬に乘て聞くべきだよ。都のせま苦しい所で神經衰弱の聲で歌つたんぢやとても眞の妙味は解すべからずさ」。

ペテ公「遂にやらんな、そいぢや己れがやんべー」(と時々仙臺辨を混える

オシヨーロー、タカシイー

ヴ井ニ公「オイ〜、そんな悲鳴を上げるなよ、をら親が死んだ時のことを思ひ出して悲しく成るから」

ペテ公の追分と來たらイヤにアクセントたつぷりな讃美歌だか追分だかわかりやしない、遂に大笑ひに成て後はさう〜出なかつた。

「ペテ公、どうだい此度は一句ひねろうじやないか」

「よかろう、それぢや己から出すぞ、ア、ウー(これはペテ公の列の專賣特許さ)。雨はしと〜、とではどうだ」

「なんだ都々一か、よし來た大に可なり。雨はしと〜、馬はばちや〜か」

「それぢや句にならんよハハハ、ハ」

これも又お流れに成てしまつた。

道は、だら〜と坂道にかゝつて來る、やがてヴヰニ公鞍をたゝひて琵琶歌をがなり出す。世の中に琵琶歌位非音樂的ないやなものはないと公言しながら、よく好んで(?)歌ふのがヴヰニ公の癖それも大抵、「錦の御旗」に限つて居る最も此外知らないんだ。

……………………

みづ穗の國は昔より武勇忠義の――人多し

ペテ公「イヨッ」

ヴ井ニ公「だうだい、いゝ聲だろう、三年この方朱子の漬物は食はんちうのだからねハハッ、、」

道は愈々俗に國境と呼ぶ長い峠にさしかゝつて來た、爪さき上りの坂は一歩〜と險しく成て來る、北海道の大森林の俤は一刻〜と吾等の眼前に逼つて來る。青白い苔のフユスツウンを飾つた桃の大木や、見上ぐるばかり楢の古木なんどが屏風の樣に茂り合ふて、其陰氣な、たまらない冷たい呼吸がヒ

シ〳〵と四周から襲ふて來る時、誰か自然の偉大と崇嚴に打たれないものがあろうか。流石のヴヰニ公も一言も開かないたゞ茫然として太古の姿に眺め入つて居る。この嚴粛な冷かな、自然の靈氣を呼吸する時、なにとはなしに、蜉蝣に等しき人間のはかなさ！夢の樣な人世の戯！かうしみ〴〵と感せずには居られない、そして、傲慢な虚榮に渇した人間が血眼に成て相爭ふて居る衢――都會がつく〴〵馬鹿らしい、いやに成らざるを得ないのだ。

やがて谷間にかけた橋の上に出る、見れば、樹木がマッ黒に繁り合ふて遙かの谷底には淙々たる水聲が聞える、未だ斧鑿の痕が少しも加はらない其こんもりとしたる森林の中には幾多の動物――例の熊の樣な猛獸などが住んで居るに違ひがない。「どうだ君、こんな嚴かな大自然の靈氣に包まれて悠々たる動物の身が、むしろ羨しいぢやないか」。馬方、語らずペチ公云はず、ヴヰニ公歌はずたゞ默々として行く、時々石に躓く蹄の音が山に反響するあるのみだ。

やつと頂上に達した、アーどうして其時の光景を忘れることが出來よふ、僕はもと〳〵文筆を、ひねくるなんて柄ぢやないんで出來合の形容詞なんか、ちつとも知らん爲に充分此時の光景を話すことが出來ないのは殘念の至りだ。がまあ想像しながら聞き給へ、頂上に達した時だ、遙かの谷間から一團の白雲がムラ〳〵と立ち上て來た、オヤと思ふ間に、はや僕等は其眞白いモウ〳〵たる狹霧の中に閉されて咫尺を辨せずと云ふわけだ、何のことはない雲の上人さ、なんて後からは駄洒落ても見るが實際其折は頗る眞面目な寧ろ一種恐怖の念に襲はれてしまつたんだね、と見ればその怪しげ狹霧の中に前面に否、後にも横にも見上ぐるばかりの大怪物がヒソ〳〵と私語きながら、うごめいて居るんぢやないか、すると其冷たい氣持の惡い手がヒヤリと僕の首ッたまをつかまへるんだ。そして

「どうだ萬物の靈長なんて、ほざいてる虫ッけら共、人間てものがそんなに偉らけりや見ん事此手を振りほどひて見ろ此手でギユッとやりや此世のお暇乞ひだ、何のことはない手前共が闘鶏の首をひねる樣なものだ」

と嘲弄ひながらピシ〳〵と逼て來る樣に思はれるんだ、僕は此時つく〴〵大自然の前に立つては人間は誠に虫ッけら同樣だ、と感せずには居られなかつた、僕は一種不安の念に襲はれて泣き出したく成てしまつた。程なく雲霧は虚言の樣にスーッと消え去てしまつた。すると今迄、大怪物の如く見えてたのは何れも幾千年をか經たる亭々たる大木である、して僕等の一行を見下して如何にも冷笑してる樣に思はれるんだ。厭まで自然に脅やかされたんだね。かくの如きこと數度僕等は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

やつと峠を過ぎて利別の開墾地を見下す處に來た。此處では多少人間の誇を感せざるを得なかつた。兎に角大森林を切り開いてかくまで開墾した人力も亦侮ることは出來ない、見渡す限り畑と云ふ畑は、大木の切り株がお墓の様に立ち並んで如何にも苦戰の痕跡を留めて居る。此時ふと「開墾」と云ふ樣な書題で人間の力を畫いて見たら面白かろうと思つた。

山を下りて利別平原を行くこと約二里、今金と云ふ町を過ぎてイマヌエルに着いたのが四時過ぎ、ペテ公は大急ぎで取調べを濟せ再び馬に跨つて、又降りだした雨を冒して今金にひき返して(此間約一里)對山樓と云ふに宿つた。此日の行程約十里、二人とも生れて初めての遠乗りだ、イヤ疲れたの疲れないので、尻の痛いこと滅法さ、やつとこさで二階にはひ上つて、食事が濟むや早速寢床を命じた。

ア、思ひ出多き旅行さ、北海道くんだりまで行つてペテ公と騎馬旅行をやるなんて、これも前世の約束ごとだらうよ、イヤ大分長く喋りつゞけた。イマヌエル村のことや歸り途の出來ごとなどは何れペテ公に聞き給へ、

と友は話を終つた。

獨力よく一町の信仰を支えし老女

鹿子木津也

われ彼を識りと言て其戒を守らざる者は謊人なり、眞理その衷に在なしと申す御書の中の句を讀みまする度毎に、自身平常を顧みると云ふは、誰方でも御座います事と存じます。常には良く心に思ひ込んで居りまするにも拘はらず。「情」と云ふ字に驅れて、思はず後になつて「惡かつた」「よせばよかつた」と云ふ樣な事をいたして仕舞ひます事が、妾等は度々御座います。こんな事があるのは戒を細かに飲みこまぬ故なのでありましようと存じます。

隨分萬事飲み込んで居る樣な御方が、まゝ彼樣な事はなさらぬ方が宜しいと思ふ事をなさつたり、又あんな事はおよしになればよいにと、考へます事をなさる事が御座います。生意氣の樣で御座いますが、つまり常識ある人と申す事は事

の善惡又は爲してもよい事、せぬ方がよい事を直覺的に、その場合〳〵に判斷の出來る御方を申すのかと考へます。これを若し御書の中の文字を用ゐて申すなら、常に眞理を心に體して戒めを細かに飲みこんで居られて、情にかられず、物事を直覺的に判斷出來る御方を指す事と存じます。

かう申上てしまへば實にやさしい事の樣で御座いますが、つひ〳〵修養の足らない爲に、是非の判斷を誤まつてしまひます、勿論程度の小さな事は人樣も許し下さるし、自分も氣が附かずに濟ましてしまひます樣な事が御座いますが、少し程度が目につく樣になりますと、恥しさに堪へぬ事があるので御座います。自分から耻しさを思ふと云ふ事をせずに、たまには人樣を御怨み申す樣な事もあるので御座います。自分を責むると云ふ事は極めて寛かで人樣を嚴しく責むると云ふ樣になるので御座ます。

　斯樣の事は常に自分が眞理を心の中にすつかり刻みこんで「情」が攻め來ようとも　何が侵して來ようとも、びくともせぬと云ふ樣になつて居りましたなら、決して前に申上た樣な事はなかろふと存じます。妾はかう申上る位ですから隨分度々前遇の樣な悔をいたすので御座いますが、多い御方の中には妾い樣な思ひをなさる御方がないとも限りませんから、一言申上たので御座います。要するに可笑しい云ひ樣ではありますが、平常幾度もきく事が、行ふにはなか〳〵困難であると自分は思ふので御座います。

　前に申上げた事とは少し違ひますが、妾はこれから良く眞理をのみこんだ一人の老女が、獨力よく一町の信仰を支えた、と云ふ美しい御話を申上げたいと存じます。丁度今から十五年前でした。妾が四國の伊豫の海邊の鹽田の多い波止濱と申す所にまゐつた事が御座います、此波止濱と云ふ町に村上米子と申す六十八歳の老人が御座いました、御話しの主人公はこの方で御座います。

＊　＊　＊　＊　＊

　今より十五年も前です、山ばかりの田舍町の波止濱には珍らしい西洋館が一つ聳えて居りました、それは教會でありました。西洋館の珍らしい建物ではあるが、窓の硝子は破れ、壁は落ち、刈る人もない故か草は茂れる丈茂つて居りした、かう申上げれば皆樣は集り來る人がないのであろふと御氣のつく事と存じます。此教會とて昔は嘗て多數の人の集つて讃美する歌が今は破れて居る窓から洩れたので御座いました、これが一變して只狐狸の住家となつたと云ふには非常に面白くない話が御座いますのです。

　此の町は小いが財産家は町の割合に數多御座いました。この有力なる人の中に、早くより神樣を知り得ました人が御座

いました爲めに、澤山の信仰ある人が出來ましたのです。然し妾が考へますのに、その澤山の信仰ある人は眞の神樣を知らずに只有力な人の餘威に從つて信仰の樣なものを起したので、言はゞその信仰は砂地の上に築かれたのだと思ひます。

兎も角も信者が多く出來た故に見事な教會も建てられて波止濱の町に異彩を放つたのです。所が悲しい事にはその有力な人が躓きましたために、從つて信仰を起した人々も皆躓いてしまひました。若し他の人に眞の信仰があつたなら、一同つまづくなぞと云ふ樣な事はなかつたので御座いましよう。如何に立派の建物も住む人がなく、徒らに風雨に洒して置いたなら、その立派を保つ事は出來ません、況して子守や惡童の遊び場所となつたから、硝子窓は破れ、壁は落ちて藩籬は通り道のために大きな穴が出來てしまひました。

然し嬉しい事には神樣は此の町から全く信仰の根までも取去つてしまはなかつたのです、前に申上た村上米子と云ふ御老人は神樣が可愛がつて殘して置いた只一の根でありました。此の見るに堪へぬ迄零落た建物の汚い門も一週に一度は開かれましたのです。それは此の御老婆さんが一人娘をつれて、禮拜日なる日曜の午前にまゐるのでありました。此の老ひたる母と若き娘は雨の降る日も、風の吹く時も、日曜には必らず來て禮拜をし、厚き祈禱を捧げるのでありました。昔の信仰を復活して麗しい建物を再現したいと云ふ事は老ひたる母と若き娘の熱望であつたので御座います。

この有樣を見る町の人は老人に向つて、御老婆さん耶蘇はもうおしまひになつたのだ、お前は一人何をして居るのだ、いゝ加減にきまりをつけよと嘲ける事も御座いました。然し此の老人の心は此の樣な嘲笑で益々刺戟されて老人は常に、「御前達はそう云ふが、耶蘇がなくなれば世の中は闇夜じや」と答へてゐたので御座いました。

瀨戸内海を舟が通はぬ日があつても、此の老人の血に信仰復活の熱望が醒めた事はなかつたのでした。一人の老女がなす眞理ある行爲は、日を經るに隨つて巖の上に建てられた家の如何の樣なものであるかと云ふ事をよく人々に理解せしめたのです。理解し得た時には前の誤解は非常の勢を以て取り去られます。

老人の熱望はその達する日が次第〳〵に近いてまゐりました、讃美の歌の洩るゝ事なくして、空しく形を保つた破殘の教會は二年の後、稀れに聖歌を洩らし、三年の後には此の町に開業せられし或る醫士の熱心なる助けの加はりまして、その年のクリスマスには多くの可憐なる小天使達の聖書の諳誦や、讃美の御歌や　賑かな問答が全町を動かす程で御座いました。

人々の嘲笑の的となりながら良く一町の信仰をさゝれた此の村上米子と申す老女は私が面會いたしました時「自分は字もよく書けぬ。勿論歌や詩のどんなものであるかは知りませぬ、私はこゝに十七續けた文字を持つて居ります、歌でもなし詩でもないでしよふ、然かしこれは私が死んだ後へ殘す積りの紙片でしたが、先日人に見られてしまひましたから、貴女にあげます」と妾に送られました、それには

花しほる後むすぶみのうれしさよ　村上米(六十八)

と御座いました。

此の老女は後に間もなくなくなられたと申す事を聞きました、妾達も此の老女の樣な信仰ある人となつたなら、耻しい思ひをする事もなく、人を恨む樣な事もなく、小さいながらも、世の人の爲となつて行ける事を信じます。

十四年ぶりの旅路日記

海老名みや

何時かはと思つて居た上方行を、此秋は是非にと心を定めて見れば、一日も待たるゝ心地がして、内外の心構へも忙がしくお父樣の朝鮮行でも、九州行でも、況んや大坂行などはお隣へでもおいでの事かと、平氣で居る子供達が、どうした事か騷ぎ立てゝ、何時々々の汽車でお出發になるの、何處までお送りしませうのと　丸で遠國へでも旅立する樣です。可笑しくもあり、又氣の毒でもありました。それもその筈、たまさか子供等を引つれて避暑に出かけたことの外は、十四年間東都の外に足蹈した事のない此母が、子供を皆殘して、西へ三百哩出かけるのですもの、母樣が遠くへ行かれると感ずるも無理ではありませぬ。

九月二十六日。五時目覺て見れば怪しい空合、何時もなれば今日一日仕事を執りて、今夜の夜行で行かるゝ筈の良人が今日はお前の爲に一日を捧げるとのことで、朝八時の急行と定めましたが、これでは富士も見えまいと失望の體。私も珍しい長距離旅行で景色も見たく富士も見たいが何が扨て連日の多忙に疲れ切つた身は汽車の中で心置きなくゆつくり休むが何よりの樂しみ、それには雨も却てよい樣な氣持がします。子供等が騷ぐ樣に餘所の方も珍しくお感じになつたものか、お隣の中野樣御夫婦新橋まで見送つて下さつた。折から敎友の城戸樣も御同車で幸ひ汽車もすいて居たので、向ひ合てゆつくり陣取ることが出來ました。子供なしで夫婦差向ひの旅行は何年振であらうと云へば、城戸さんがハヽヽ、それでは

新婚旅行でなく銀婚旅行ですなと笑はれた。成程銀婚旅行とでも名をつけましやうか。何だか子供を離れて氣樂で、身輕で手持不沙汰で我身一つを如何しやうと持扱ひかねた樣です。神戸から東京へ移り住む時、朝六時から夜の十一時まで、搖れに搖れて疲れきつた經驗の記憶許り持て居た私には、今の滊車が早くて、乘り心地が能くつて室内が整頓して、年若い上品なボーイが時々見廻つて、鄭重に來客の用を辨ずるのは誠に快い、これでは却て疲れも休まりましやう。城戸樣は好機逸す可らずと攻めよつて、盛んに論戰を挑まるゝので、良人は初めの程は少々迷惑の樣でありましたが、其熱心に勵まされて面白く御相手を勤めて居られました。私には六ケしい分らない其議論が却て眠りを催す種となつて、眠りつ醒つ、半日を過して十二時半靜岡着。此處にて晝食。成程靜岡のお辨當は美味しい、多少空腹を感じたせいでもありましやうが、何も彼も平げ盡して城戸樣や良人に笑はれ、これが新婚旅行なれば嘸赤い面をしましたらうが銀婚旅行にはそんな御愛嬌はありませぬ。ア、雄二をつれて來たならば嘸喜んで喰たであらうとすぐ子供のことを思ひ出します、親の情といふものは斯樣な些細な事にも動くものか。雨は小止みなく降りしきりて、名古屋の城もぼんやりと雨中に眺め、氣車はひた走りに走りて、薄暮には早や江崎にはいりました、久々で湖水の一部を眺めながらいつしか大坂山のトンネルも過ぎ、京都へ着くも數十分の中、思へば京都を去つて早や十七年、流石に懷しい京都ステーションに着いた時はどんなであらう。山下さんが來て居られるか知らんなど想像の中に汽車を止りました、急ぎ城戸樣に別れを告げて、プラットホームに降り立てば、向ふからにこ／＼とやつて來られたのはまがふ方なき山下さん、今一人は矢張り本郷教會員、待ち設けた事ながら、今更の樣に嬉しくて、導かれて待合室にと急ぎました。荷物を受取ることが仲々手間取れて、二十分三十分山下さんと樣々の話しながら、室に入る人出る人に眼をとむれば、紳士らしい人、貴婦人らしい人、流石は西の都丈あつて立派な人が多い中にも、二十四五とも覺しい若い奥樣が純然たる京風の女中をつれて　靜かにあゆめる姿、誠に優しく美しく人形ではあるまいかと思はれました。はき／＼した東京つ兒を見なれた眼には餘りに穩やかで、つゝましやか過ぎて表情がちと足りない樣です、今一氣合いれたらば嘸やと思ひました。が、之が所謂京都式美人でしやう。雨は益々降りしきりて乘手多かりし爲か、車夫が閉口して、行くことを望まぬ爲か、僅か數輛の車があるばかり、それと掛け合つてもなか／＼判然した返事をしませぬ。車夫等は互に讓り合つてワタシアキマヘンサカイアンタオイキンカなんてゆつくりと話合つて、行く

のか行かないのか薩張分りませぬ。車軸を流す雨の中に客を立たせての此問答、ヤレ／＼京都は氣の長い處、お前方は行くのか行かないのか早く極めて下さいと遂ひきつぱりと一聲出した爲、ソレデハワタシイキマスサとやつと極りました。荷物を取るから車をきめるまで約三四十分餘をとられた爲、豫定の時刻より餘程後れて車は烏丸通りを一直線に出川通りへ突當り、同志社女學校の門に達しました。

門内遙か奥の方に立派なる校舎寄宿舎があちこちに見ゆるので、デントン女史の住居はどれであらうか、其中のいづれかであらうとまご／＼して居ますと、二三人の車夫體の男來りて、テントンハンの御宅はこゝドスと敎へ導てくれました。後で聞けば態々女史が私共を迎ひの爲七條ステーション迄出して下すつた車夫であつたそうです、しるし許りに建られた二本の棒杭の間を通りて上り口に至れば、女史自ら相變らず元氣のよい聲で出迎へられて、グショ濡れの上衣やコートをとりパーラーへと導かれ溫かき手を握りて絶ねて久しい挨拶を換しました。見れば女史の住居は純然なる日本家屋 而も古い粗末な建築で我日本人の住居としても不自由な家であります、それを態々修繕らつて住居とされて居るのは決して物好ではない、寧ろ女史の献身的精神より出たことだと思ひます。女史は豪傑風の人で、時々破天荒の事もやり奇行もあるので人に迷惑がられる事もありますが、兎に角同志社女學校の爲專心一意働かれる點に於ては、恐らく誰も及ぶものはありますまい。私共は女史の大歡迎を受ることは實に嬉しく思ひます、合監富の森女史を初め數人の先生方、ゴルドン未亡人など絶えて久しい人々や初對面の人々と卓を圍みて堆かく盛られた無花果やチンチャーケーキお紅茶など樣々の御馳走を喰べつ話しつ果てしない折から、お風呂が出來ましたとの事に、それではお湯にはいつてゆつくりお休みなさい。ミスターグビナ湯殿はこちらだから寢巻に着替へてからおはいりなさいと、デントン女史のお指圖、西洋婦人としては至て磊落な仕方、之にても女史の一斑がうかゞはれます。同夜快く安眠。

明月をとつてくれろと泣く子かな　（一茶）

秋のくれいづこさまりの一つ鳥　（一茶）

村百戸菊なき門も見えぬかな　（蕪村）

いづくより胸うちいれん佐保山の
さゝれにうつる白菊の花　（景樹）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

摘草集

▲妊婦保護所の必要

法學博士　小河滋次郎

少しく心を留めて考ふれば、我邦に於ける慈善救濟事業にして、婦人の手に俟つべきもの鮮なからざる中にも、姙婦保護の如きは、其最も急務なるものの一であらうと思ふ。言ふまでもなく出產は婦人に取つて最も重大の事で、若し之に對する注意を怠る時には、生るゝ子供を不具癈疾ならしめ、將來國家の厄介者を殖やすことになるのみならず、產婦の健康をも害ふ。殊に下層社會にありては、其日〱の稼業に追はれて、一定の期間安んじて產褥に居ることも出來ず、甚しきは墮胎を行ふて、世に害毒を流す者すらある。彼等は好んで之をなすのではない。子供を產んでも之を育つる費用に窮するからで、情狀憫む可きものがある。

されば是等の姙婦を收容して種々の便宜を與へ、或は手傳人を產婦の自宅に派遣して之を助け、一切施療にしないでも、產婦の境遇に應じて、實費の徵せらるゝものは之を徵し、貧困にしてそれに堪えざる者には之を支給するやうにすれば、產婦の幸福は勿論、やがて國家社會の爲めである。將た又人道の爲めである。

本年八月から九月に掛けての洪水は近古未曾有の慘事で、其被害は獨り關東地方に止まらず、延ひて關西の各地に及び、全國殆んど害を被らぬ所はない位である。是等罹災地方の人民は、或は其家屋を流失し、或は家族離散して、衣食の窮乏を告ぐる者百萬の多きに達した。別けて同情に堪えないのは產婦である。彼等の多くは永く水に浸された爲めに早產し、中には肥立惡しく死亡せし者さへあるのである。若しも我邦の婦人に眞の同情があるならば、斯る者に向つてこそ注ぐべきである。同情深き婦人が率先して姙婦保護所を設くべきである。洪水の災害後、一時的の問題ではない。世の中が複雜になり、世智辛くなるにつれ、益々必要となる問題である。

（婦人畫報）

▲禁酒と婦人

島田　三郎

禁酒に就て、現に議會で丁年以下の禁煙を、法律を以て禁じたと同じやうに、又外國の或所に行はれて居ると同じやうに、丁年以下に禁酒させやうと云ふやうな運動をして居ります、併しよく考へて見れば、此法律を行つて、効果があるやうならば結構であるが、それよりは先づ家の內を監理する婦人が、此道理を確乎信じて、その良人なり、親なり、子なりを、惡い習慣に染まらぬやうにしたいと云ふ熱心の考へを起すやうするのが肝要で、法律で禁じやうとするよりは、この方が遙かに大なる効果を收むることが出來やうと思ひます、一治を未だ亂れざるに制する」と云ふ語は、即ち此意味でありまして、此世の中には法律規則も必要ですが、法律規則を要らないやうにすることが出來ればなほ結構で、これは決して出來ないことではありませぬ、何故ならば酒と云ふものは、天然人間の好むものではない、飮み習つて始めて好きになるのであります若しも小兒が五六歲の時に、アルコールを飮ませましたならば、必ずその苦い忌むべき味を嫌つて、吐き出すに相違ない先頃此酒に關する悲むべき記事が、時事新報紙上に出て居つたことがあります、それは高等商業學校を本年優等で卒業した人……此人は母親の手一ッで育てられ、母は只その卒業するのを樂みにして待つて居つた、處が、卒業の祝ひに紅葉館で、無理に多量の酒を飮ませられたので、其場に氣絕して仕舞つた、早速家に連れて來て治療に手を盡したが、遂に其爲めに死んで仕舞つた、酒も阿片やモルヒネなどと同じで、少し宛飮んで居れば是れ程の害は及ぼさないのですが、嫌ひで飮んだことの無いものを、一時に多量に飮んだから、その害も烈しく來たのでありませう、でありますから、酒は何でも慣習を附けないやうにすることが一番大切であります、それには、家を監理する婦人の考へが確かに極つて居れば、害のあるものを、人に飮ませることが出來ないから、間接直接にあらゆる方法を以て之を禁じ、或は漸次に其量を減じて往くことも出來るのであります。

（時事）

▲病人の食物

東京割烹女學校長　秋穗益實

病人の食物は、其の病人の口に、よく適する様に調理することが第一かと思ひます、處がそれは中々難かしい事で、口に熱があつたりする病人の口に適するやうにしやうとするのは、一通りの事ではありません。

▲看護人の注意　勿論言ふ迄も無く、病人に食物を侑める場合には、食物そのもの丶眞の味以外に、直接間接に、看護人や給仕人等の注意の粗密が、非常に影響するものです、又食事中は神經を刺激する様な事を少しも云つては不可ません、元來病人は藥餌と親み、枕頭の藥瓶を眺めて起臥する外は、之れと云ふ樂みの無いものですから、病人を喜ばせるものは食物で、病人も亦何を食べたら宜いか、自分でも解り兼るものですから、看護の者は、病人の平生の嗜好、習慣、病狀等を斟酌して、料理法に工夫を凝らさなければなりません。

▲米の重湯　白米を大匙に二杯位、乾燥した布片に包んで、充分に摩擦し、塵を取つたものに、一合の水を加へ、鍋に入れて一時間程弱火で煮た後、其の煮汁を裏漉しにして、鹽少量を加へそれへ沸騰させた牛乳三合許りを加へると大變美味であります。

▲オートミールの重湯　はオートミールを大匙に二杯許り、三合の水の中に融かし、鍋に入れて米の重湯と同樣、弱火で約一時間半許り煮、裏漉にして少量の鹽を入れ、更らに砂糖を大匙に輕く一杯入れて用ゐると宜しいのです。

▲トーストブレッドの重湯　二日程經過した食麵麭を小口から二分位の厚さに切り、網の上でホンノリと狐色になる迄燒き、細かに碎いて鍋に入れ、鍋一杯に熱湯を入れ、麵麭の心まで軟かくなる程浸して置き、後裏漉をして少量の砂糖と鹽とを入れるのです。

▲牛乳卵の製法　牛乳一合を沸騰させ、少し冷してから玉子の白身を攪拌し泡立てたものを混ぜ、少量の砂糖と鹽を加へるのです。

▲果物水の製法　フルーツ、ウオターは林檎、桃、梨等の皮を剝き、竪に二つに割つて核を取り去り、細かく刻んで鍋に入れ、鍋一杯に水を入れ、軟かくなる迄煮沸し、裏漉にして、少量の砂糖を加へ、更らに鍋に入れて煮、其後冷して瓶に入れ、冷い處に置いて貯へ、病人が水を欲しがる時に、適當の量を茶碗に入れ半分か同量の水又は牛乳を加へて用ゐるか、夫れとも場合によつて玉子の白身を能く泡立て丶混ぜ合はしても宜ろしいのです。

▲牛肉液の製法　牛肉十匁位を細かく切つて、鐵葉製の罐の中に入れ、その中へ水二合を加へ、別に深い鍋に半分許り湯を入れ、沸騰した處で、右の罐を入れ、三時間程浸けて置けば、上等の液汁が出來ますから、其汁を絞つて、要るだけづ丶取り出し少量の鹽を混ぜて味を付けるのです。(時事)

露散るや各々明日は御用心　(一茶)

▲小兒の貧血症

醫學博士　加藤照麿

貧血症といふ病氣は子供には實に多い病氣です。他にこれは、營養が惡くて起ることもありますし、何か病氣のあるために起ることもあります。殊に、營養の惡いために起ることが最も多いやうです、まづ大抵は、乳汁營養が過ぎるために起ります、即ち乳ばかり何時までも飲ませておいて、子供が大きくなつても副食物を始めないために、脂肪がついて肥りはするが　乳は血を作りませんから、貧血症に罹ることがあります、

それから　他の病氣のために起るといふのは、たとへば、梅毒、結核、腸胃病などのために貧血症になるのです。貧血症の豫防法は、第一は、子供が成長して適當の時期になつたら、乳汁の外に澱粉質の食物を用ゐ、他の副食物を始めるのです。第二に、他の病氣のために貧血症になつたのならば、まづその病氣を治療しなければなりません。

太陽の光線にあたることは非常に必要です。始終日の當らぬ薄暗いところに子供をおくと、貧血症になります。食物では、野菜と果物が一番宜しい。相當の年齡になつたら、なるべく早くこれを食べさせるやうにしなければなりません。(婦人世界)

山里は汁の中まで明月ぞ　(一茶)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時事其折々

▽葡萄牙革命

積衰積弱、今日では世界に忘れられた國の一に數へらるゝ葡萄牙は、一昨年先帝カルロス第一世と皇太子とが狩獵の歸途無政府黨員の兇手にかゝつて非命の御最後を遂げられてからといふものは、いとゞ國内一般に不安の暗雲に閉されてゐました。

幼帝マヌエル二世が御年少の御身を以て能く國民を愛撫したまふにつけ、稍々皇室と國民との關係も圓滿になりかゝつてまゐりましたが、其内閣は再三失政を演じ、其都度交迭に交迭を重ねて現内閣に及むだのですが、現内閣も高壓手段を以て選擧に干渉したといふので、痛く國民の反感を招いだといふ有樣でした。

然るに、十月五日の西電は遂に大革命が共和黨の手によりて行はれ、皇帝皇太后其他の皇族は僅かに身を以て免れ、一時其行衛も不明で、或は弑虐の難に遭ひたまふたとか、或は捕虜となられたとか、種々の情報を傳へました。こゝに尤も驚くべきは、近衛師團を始めとし其他海陸軍の大半が此革命運動に加擔したといふことですが、かやうなことは、私共には奇異の感じを與へたのみならず、そのあまりのことに到底信じかねた次第でしたが、事實はやはり情報通りであります。

其後確聞するところによれば、皇帝等は快走船で、ジブラルタルまで落ち延びられ、尋で英國に御渡航遊され、革命黨は王城を占領し、新政府を組織し共和主義を宣言し、文科大學敎授ブラガ博士が新内閣の最初の首相となつたといふことです。

この革命の由來は一朝一夕に説明は致しかねますが、先帝は君主獨裁の方針で、十分國民と調和することは困難でありましたが、あれやこれやで、共和黨は、議會に於てこそ其勢力は微弱のやうですが、其國民間では一大勢力となつてゐるので、帝政黨は毎に非常手段で以て之を議會勢力の上では壓服を加へ來つたので、隱密の間に革命の素地を拵へるやうに出來てゐたのです。それから、皇太后は奢侈を好まれ、從て國民からも借財されたといふ珍聞も傳つてゐますが、そのために財政整理を名として重税を課するやうになつたといふことで、是亦國民の同情を失ふ一原因となつたのです。

新政府が成立したから、葡國皇帝は當然退位されたかといふに然うではなく、皇帝は統治權は猶依然として留保し給ふ旨を發表されました。で、一方の新政府では、その成立を各締盟諸國に聲明しましたが、さうなると、一國に二つの統治權が存在し恰も天に二日ありといふおかしな現象であるが、歐洲諸大國は勿論我日本でも未だ其成立を承認するの通牒は發しませぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第十六世紀頃の一大冒險家ヴァス、コデ、ガマは我國を其紀行記で世界に紹介して呉れた深縁もある葡國、其後我長崎貿易では和蘭などゝ其得意を爭うてゐた葡國、その葡國の現狀は、實に悲慘なものでありませぬか。一國にせよ、一家にせよ、かゝる不祥なる雲行であつては、到底國際上に優勢を占め、社會上に一家繁榮を來たすこといふことはあり得べからざる次第であります。この革命の敎訓は、獨り近世外交史の敎科書を賑はすのみではなく、やはり、修身齊家の實際敎訓ともなります。支那の古聖は、修身齊家治國平天下といふ萬古不易の大道を示してゐるではありませぬか。

▽戰艦「河内」の進水

戰艦「河内」は、過去十九ヶ月の作業により、十月十五日を以て横須賀海軍工廠で進水式をあぐるに至りました。此日生憎秋雨降りしきり、空前の盛典も之がためにやゝ阻まれたのは殘念ですが、此日畏くも　聖上陛下臨御遊されたといふ此一事は、慥かに我海軍の威力の上にいかにも無限の意義を與へられたるものと申して差間はよもありますまい、聖慮のほど仰ぎ奉りて、私共は自ら顧み自ら奮ふところあつて、奉公の實を萬一なりともあげたく祈望して止まぬ次第であります

戰艦「河内」は、巨艦巨砲主義に加ふるに、最近の海戰に於ける實驗發明を以て建造された世界最秀の堅甲であります、

（艦種、一等戰艦、船材は鋼、排水量二萬八百噸、軸馬力二萬五千、長五百二十六呎、幅八十四呎、厚さ四十四呎、吃水二十七呎、速力二十節、甲鐵の深さ十二吋、乗組人員約千人にして其武裝は十二吋砲十二門、六吋砲十門、四吋七砲八門、三吋砲十門なり、其他水雷發射管五門、探海電燈六個を備へ汽機はカーチス式ターピン汽罐宮原式）

猶、さまではと思ひますが、こゝに小栗海軍大佐が海軍省の特命により國民黨政務調査會の請にまかせて講話された中に、列國海軍の大勢を知るに足るべき表がありますから、こゝに轉載します。

△本年の列國主力艦隊勢力

	戰鬪艦	甲裝巡洋艦
英國	五二	四五
米國	三二	一五
獨逸	三三	一二
佛國	一九	一五
日本	一四	一三

△明治五十年の列國主力艦隊勢力

	戰鬪艦	甲裝巡洋艦
英國	四七	三一
米國	三七	一六
獨逸	三一	一四
佛國	二六	四
日本	七	七

△本年列強の遣東し得べき主力艦隊

	戰鬪艦	甲裝巡洋艦
英國	二六	二三
米國	三二	一五
獨逸	三三	一二
佛國	一九	一五
日本	一四	一三

△明治五十年に於て列强の遣東し得べき主力艦隊

	戰鬪艦	甲裝巡洋艦
英國	二四	一六
米國	三七	六
獨逸	三一	一四
佛國	二六	四
日本	七	七

かやうな形勢で、來る明治五十年には列國の遣東し得べき主力艦隊は、之を我國の夫に比べますれば、戰鬪艦のみにても、英國が十七隻、米國が三十隻、獨逸が廿四隻、佛國が十九隻といふ優勢を示してゐまするから徒らに地形の利根據地の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

便宜或は天佑と人力とにのみ倚賴して居る譯にまゐりますまい、いかなる場合にしも、帝國の地位を安全に保つに足るべき最小限度の擴張補充計畫をなす必要があるかと思はれますが、戰艦「河內」の進水は我國建艦史上空前の盛擧であるが、之につけても祝福された「河內」の姉妹艦が異名同體の下に續々生れ出で、、護國の干城として世界に雄飛せんことを祈らざるを得ませぬ。

▽工場法案の公表

世界各國中、工場法の制定なき國は殆んどない。我國も近來產業の勃興と共に勞働者を保護すべき必要が痛切に感ぜらるやうになりました。明治卅一二年頃に高等農工商會議なるものを組織して、工場法について研究されたことがあり、又一昨々年、兩京法科大學教授を中心として朝野の關係者が組織してゐる社會政策學會で「工場法と勞働問題」といふ題目の下に一大討議を行つたことがあります。昨年の議會では、政府案として提出されましたが、不完備の點があるとかで、撤回されました。然るに十月十八日、農商務省工務局の立案したものが、公表され之を各關係團體や學會に諮問さるゝことになりました、勿論此法案は本年の議會に提出さるべきことは、いふまでありませぬ。

先づ第一に其法律の適用範圍から申せば、工場中(一)原動力を用ふるもの、(二)事業の性質危險なるか又衞生上有害の虞あるもの、(三)常時十人以上の職工を使用するものに限ります、第二に勞働者の年齡制限であります。原則としては十二歲未滿の者の就業を禁じます。之は小學教育義務年限を標準としたものであります。但し例外として二つの場合を許してゐます。即ち甲は、本法施行の際十歲以上の者を引續き就業せしむる場合、乙は、行政官廳に輕易なる業務について就業に關係する條件を附して十歲以上の者の就業を許可する場合であります。第三に就業時間の制限であります。十六歲未滿の者及び女子は十二時間を以てその就業時間の限度とするを以て原則とし、猶又此等のものをして午後十時より午前四時に至る間に於て就業せしむることを禁じてゐます。尤も業務の性質が輕易で、著しく不衞生ならざるものについては、二時間の延長を許し、事業の性質上深夜作業の止むを得ざる者については、時に之を許す場合もあります。以上の制限は今遽に實施されては工場經營者に意外の不都合を來たさしむる虞あるから、この制度は漸進主義をとつて、今後十五年經過の後を期して完全に本法の目的を達することとしてゐます。第四、工場の設備改善等については今法律で定むるとすると、仲々各種の工場を一律するわけにはまゐりませぬから、之に關しては、命令に由り隨時實行せしむる餘地を存してゐます。第五、職工の業務上の負傷及疾病については、現行鑛業法の規定により、鑛業主が鑛夫に對して給しつゝある扶助の限度に準じ、勅令を以て其規定を設けやうとしてゐます。

元來、工場法を制定する必要如何といふことについて議論がありましたが、必要論者は之に由つて資本主と勞働者との調和を計ることが出來るといひ、反對若しくは尙早論者は、必要論者の所見は歐

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

米社會にこそ通ずれ、本邦の如き古來主従の關係あり、師弟家族の情誼ある工場組織に於いては法律の制定なくも、何等妨げなしといひます、或人は大企業組織（歐米風）には必要、小企業組織（本邦風）には不必要と適用の範圍を規模の大小によつて、定めんとする必要論を賢げに唱へてゐます。然し、今日となつては、最早必要の有無を論ずべき秋は過ぎ去つて愈々其内容實施の方法形式等について朝野共に意見を交換して、其成案を見やうとしてゐるのは何よりのことであります。

▽波斯の騷亂

最近の外電によれば、英國政府は波斯に對して、通牒を送り、南部波斯の秩序が向後三ケ月以内に囘復しなければ、英國自ら之が鎭定の任に當り、場合によつては印度軍隊を派遣すべく、其費用は波斯灣關税收入を以て、之を支辨すべき旨を宣言したといふことであります。

これは南部波斯の紛亂が久しきに亘つて治まらず、英國貿易が多大の損害を蒙れる今日ですから、遂に止むを得ないことでありませう。前帝マホメツトアリの秕政が國民黨の革命運動を促し、其國境が亂麻の如くになり、殆んど無警察の狀態となり、無賴の群盜各地に横行し、昨夏、憲政派勝利の結果、前帝廢せられ、新政治が布かるゝやうになりましたが、内地鎭定費に充つべき借款問題が未定のために討伐の實蹟を擧ぐることが出來ず、其結果、南部波斯の貿易總額が激減したので、商路不完全の原狀囘復を要請するに至つたのであります。

然し、今度のことは獨り右の理由ばかりに基くのではありませぬ、他にも二大理由があります。第一は對露政策上よりの必要で、露國では波斯に於ける活動が英國の制肘によつて思ふやうにならぬので、前外相イスウヲルスキー氏などは昨夏以來非難攻擊の焼點となり、今回外務大臣の椅子を從來次官たりしサノーフ氏に讓つたのも此ためだと噂されてゐますが、之と同時に宮廷内及び守舊派間に有勢な親獨熱が之を機會として勃發しやうとしてゐますから、英國とても默つてゐるわけにはまゐりませず、一千九百〇七年二月、外相サー、グレイが宣言した「無干渉主義」をのみ固持し、露國にも其欲せざるところを强ひやうとするのは英國にとつて得策のことではありますまい、第二は波斯最近の排英露的方針に對する必要で、波斯が英露の「無干渉主義」を德とせざるのみか、却つて英露兩國を排斥する嫌があり、財政司法等諸顧問聘用問題についても、兩國の提案を斥け、却りて米國公使が護謨專賣の問題で、英露と一致的態度をとらなかつたのを德とし其米人招聘の議をなし、又借款問題に關しても、絕對に英露の條件を拒絕しましたのみならず、最近土耳古で外交上の勝利を得た獨逸が、其餘勢に乘じて、バグダツト鐵道の將來の發展地たる波斯に於いて勢力扶殖を計つてゐるといふ有樣であります、東洋平和の宿題が至極穩便の間に解決されたのにひきかへて、徧國といひ、波斯といひ、物騷なことであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

目前の利害を超越したる生活

小此木　松子

「シエレーの生涯」をよみました、随分此天才詩人の短い生涯に就ては批難の聲も高く、世間の道德の法則によりては、照し難いやうな事も段々とあるが、其もとに溯つてみれば、彼の心は湧き出づる泉のやうによどみなく、濁りなき源、一點の自我なく、利害の念なき凡俗以上の美くしさで、從て其遺すところの詩は、バイロン一派の自我に溢れた作品と比べて云ひ難い異ひを感ぜしめます、彼の如き無垢脫俗の人にして初めて完全に自然を歌ひ、天上をうたふ事が出來るのでせう。

一體、古今東西の偉人と云はれる人には、皆此無我の精神があつたのではありますまいか、故大西郷の逸事などを讀むと、云ひ難き心地よさを感じ、崇拜の念を起すのも、彼に私なかつたが爲め、日本の兵士が戰時によく鬼神の働きを表はすのも、陛下國家のために身命を忘れ、餘念を棄つるがため、此邊の消息は糊口の道を得むが爲めに、入隊し出征する米國あたりの兵士には到底解しがたい所であります。

「爲にする」ところが無くなつた時、人間は始めて眞面目になり得るのではないでせうか、爲にする所ありて働き、爲にする所ありて笑ひ、泣く間は眞面目な人間ではありますまい。

眞人間となるか、作りものであるかの差異はこれから來るので、自我が無かつたならば、己れの所感所信を人の前にとり繕ふ氣兼心配は爲くなりませう。お互に成る可く自然の儘であつたならば、どんなに神經が休まることでせう、眞面目であるといふことは態度ですから、必ずしも智と伴ひません、敎育、生活の程度には關係なく、或人は眞人間となり、或人は作り物です、女子と小人とは養ひ難しとは昔々已に金言となつたとて、特に見限られてをる私共、今さら救ふ道は無いと云つてしまへばそれ迄、しかも、今の時代の我々が今少し奮發して、小人のお仲間外れをしてみるもよいではございませんか。

人間は自我の爲め許りに生れたるものでは無い。又目前の利害の他にまた生存の意味かといふことを考へて、我々一同から一息、氣を大きく致しませう。

後れ行く母親

△家庭に於ける母なる婦人が今日、自分自身の爲めに、又は子女弟妹の爲めに如何なる敎養をなしつゝあるかと尋ねるならば、敎師又は特殊の職業に從事して居る婦人の外に、一般的に云ふならば彼等は殆んど何等の學問も修養もせず、徒らに其日其日を苟偸して居ると云つても決して過言ではなからふと思ふ、其學生時代に在つては競つて勉強し讀書し思考した婦人が、一旦入つて家庭の人となると精々讀むものは、新聞か雜誌位なもの

である。而も其新聞雑誌に於ては、所謂三面記事か或は他愛もない小説めいた記事を繙讀する位が關の山である　而して常に家事多忙なる言葉であらゆる怠惰無責任の唯一の遁辭となして居るのである

△一家の主婦として、又は母としては家政家事に對する辛勞は何人と雖も之を認めないものはあるまい、良人や子女や召使の世話又は親戚知己の交際等の間に唯一の人として切つて廻さねばならぬ人であるから、年中心の安まる時がないといふのは、決して口實でも遁辭でもあるまいと思はれる。然しながら、斯くの如く勉強し讀書し思考し得ざる程多忙なる主婦によりて經營せらるゝ家庭、教育せらるゝ子女は如何に不幸であらふ、眞實其良人を想ひ、其子女を愛する妻母であつたとしても、斯の如んば五年十年二十年の後に於ては、其家庭は必ず不統一なる思想や感情や趣味等によりて不愉快なる一の合宿處たるに終るであらふ。

△多くの母親は其子女の小學校時代迄は其思想に於ても學問の上に於ても善良にして適當なる監督者たり得る事は確かである。高等女學校程度の學問が結婚の必須なる要件と見做れて居る今日に於て、世の女子教育家が小學時代の子女のおさらへをも見る事が出來ぬ母親を作りつゝあるとは如何しても思へぬからである。然れども子女は何時迄も小學校に通學して居るものではない、十三年十四年の後には中學校か或は同程度の學校に入るであらふ。此の時に當つても尚ほよき監督者たり得る母親は世に果して幾人あるであらふか。よし自分の學校時代に於て、中學初年級位の學課を學習した事があると云つても、學界は進歩して一刻もやまぬ、新らしき學説新らしき實驗は續々として表はれる、偶々嘴を容れゝば誤謬虚偽として子女の嘲笑と不信用とを買ふに過ぎないである。斯くして親母は最愛の子女から先づ學問の上に於て離れ去るのである。

△尚現今の母親が時代精神と全くかけ離れて存在して居るには、一驚を吃せざるを得ない。之は必ずしも母親許りでない父親と雖も悉く時代を解釋し順應し得ざる今日に於て、母親をのみを責むるは大に酷かも知れないが、吾人は時代思想を了解し得ざる事が、青年子女に對する影響の甚だ大なるものなるを信ずるが故に常に子女に接觸する母親に對して時代精神の了解を殊に希望せざるを得ない。

△時代の精神はそれからそれへと移り行く。道德の觀念も推移し動搖し人生の見方も變つて行く。青年期になれる子女は一刻も遲れざらんと其方に驅けて行く、新を見新を聞き新を論ずる。斯に於て親と子とは同じ一家にあつても別な世に住む事となる。御互に同情もなければ理解もない、親は親、子は子と各々異れる思想信仰を抱いて居るから、他愛もない世間話にこそ笑の花は咲け、根底的の談話になると、遂に之れ路傍の人である。斯くして親は其子女の精神の上から永遠に離れ去らねばならぬのである。隔離の想は多くの悲劇と隨落とを造る。吾人は茲に思ひ至れば實に母親の責任の重大なるを想はざるを得ない、家事に熱心なるは誠に結構なる事である。けれども之が爲に後れ行く母親となる事あらば、誠に子女にとつて不孝な母親である。(楠男生)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

通信

去月五日に終れる組合教會總會に於ける婦人會に海老名夫人の出席せられたる事は前號にて御報知申しました通ですが、今三宅夏子姉より同會の模樣を御報告下さいましたから、左に掲載致します。（記者）

日本婦人傳道會

▲婦人信徒大會　　三宅夏子

今より四ヶ年前即ち第二十三回組合教會總會が神戸の地に開かれしや、婦人信徒大會なるもの開催せられ、茲に始めて呱々の聲を擧げし日本婦人傳道會は、今や第四回の總會を開く事となれり。此の總會は婦人信徒大會と共に、毎年教會總會と同時に同所に開會する事慣例とはなれり。本年の會場は神戸女學院講堂にて、午後一時より祈禱會、同二時より同會總會を開會す。前年度事務會計報告並に同會より朝鮮傳道に派遣せる福永姉の同地に於ける傳道の報告及會長渡邊常子姉の一場の奬勵ありし後、組合教會總會に於ける議長として、小崎牧師の挨拶、奬勵役員撰擧等ありたり。會長には多數決により渡邊常子姉重任せられたり。

午後三時より婦人信徒大會あり、三宅夏子姉司會の下に開會、聖書朗讀、祈禱の後、海老名牧師夫人みや子姉「婦人と宗教」なる題の下に、最も謙遜なる態度をもて、現代青年男女が如何に惡潮流の爲に猛烈なる誘惑に導かれつゝあるかを語られ、又種々の實例をもて婦人に信仰即ち宗教の力の必要を説かれ、殊に子女の教育と信仰の必要につきて力をこめて説かれし處は實に切實なりしがゆゑ、聽く者をして大に感動を起さしめたり。次に牧野牧師は「マリヤとマルタの性格」と題して兩女性の異なれる性格を解説して、之れを吾人現代の者にあてはめ、適切なる教訓を與へられたり。會衆二百有餘名にして之れに神戸女學院生徒、並に牧師傳道師等の來會せられしものを加ふれば、三百名に及びたり。甚だ盛會にして午後五時過ぎ散會せり。

▲神戸教會婦人會

此回婦人信徒大會の爲に出場せられし海老名牧師夫人みや子姉の來神を好機として、姉の厚き信仰と、其の實驗談を聞き、且つは舊情を暖めんとして十月三日午後二時より、神戸日曜學校々堂に於て、姉を知れる舊友並に婦人會の姉妹等相會合せり。事倉卒にして通知の暇少かりしにもかゝわらず、五十餘名の姉妹等來會せられたり。市田夫人の司會の下に、讃美、祈禱の後川本夫人の歡迎の辭あり。後海老名夫人の子女教育についての種々なる實驗を聞き、又數名の姉妹方も各々其感ずる處を語られ、近來稀れなる一種の美はしき會合にして、時の移るをも知らざりし程なりき。後茶菓の饗應ありて午後六時前散會せり。

一、夜ふけてこと問ふとも、ほつ時鳥、雁かれは、必ずうとくすべからず。

一、枕にかよふとも告なきものは、花の香、遠寺の鐘、霜夜の虫の音は、殊にあはれむ可し。

一、月はいつとても親しむべし、されど過ぎし世を慕ふもくるし、行末をおもふもうるさし、只向ひてこそあらまほしけれ。

一、我程を知り、なすべき事をなしてこそいはめ、強て古をしたひ、月花をめづるとていかでいはん、夜すがら月を見んよりは、日を惜むにしかじ。

一、おもふに逢ふてうれしきは、八月十五夜の晴れたる雲間の月、幼きとおもふが、文つくり歌よみたる。

一、きゆるときをゆるして、雪を見、雫の月をおもひて夕立にあふ可し。

一、梅が香を、櫻の花柳の枝になどとは、おもふまじき事なり、花のくれなゐ、柳の緑、心をわけて樂しむ可し。

（松平樂翁）

編輯だより

△やま里は秋の末にぞ思ひ知る悲しかりけり木枯の風。とは暮秋を咏じた西行の歌でありますが、唯に山里のみではありません、都の巷にも秋更けて、空吹く風、立ち迷ふ雲の様にも忍び離き思ひの多い事で御座います。寂しい想は多くとも、紅葉の色蟲の音に捨て難い楽しみはありますに、其秋さへも最早過ぎ行くかと思ひますと、何となく身にしみる思が御座います。それに就けても吾等は其一日の仕事に充分の力を盡し、行く秋をわだかまりのない心持で送りたいと存じます。

△來月は樂しいクリスマスがまゐります。例によりクリスマス號を發行する筈で、内容もいろ／＼と苦心中で御座います。如何なものが出來ますか、今から豫告をしない方が却つて興味が多い事と思ひますが、何れ目新らしい記事を満載致したいと思つて居ります。紙數を増加するかどうかは只今の處判然致しません

△先月神戸で開かれた組合教會の總會に於ける婦人會に海老名御夫人が出席せられた事は既に前號に於て御報告申して置きましたが、御話によると非常の盛會だつたさうで、方々で歡迎せられた事を感謝して居られました。御夫人の此行によりて本誌々友が數多く加はゝられた事は私共の喜びに堪へぬ處であります。同夫人の上方紀行は別頁に掲載しで御座います。次號に於て完結する筈で御座います。

同婦會人の模樣は三宅夏子姉より懇々御報告下さいました。之は通信欄に收めてあります、同姉の御厚意を感謝致します。

△此度安井主筆や海老名御夫人の御盡力によりまして、本誌は教育界に有力なる四五名の方々を社友に推す事となりました。其御名前は御希望により暫らく發表する事を見合せますが、今後の本誌を御覧下さいますと自ら御解りになる事と思ひます。本誌も讀者諸姉と先輩諸君の御助力により益々隆盛の域に進みます事は私共の偏に感謝する處であります。

△本社事務所は都合により又々移轉する事となりました。此度は東京小石川區林町四十三番地海老名主幹宅に置く事となりました。度々移轉をなして讀者諸君に御迷惑をかけた事と思ひますが、不悪御容赦を願ひます。

△諸種の投書を歡迎致します。

△讀者諸姉の御健康を祈ります。

本誌定價｛一部金拾錢（郵税ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵税ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵税ナシ）

外國行定價｛壹部金拾四錢（郵税ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵税ナシ）◎一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵税ナシ）

廣告料

行	四分ノ一頁	半頁	一頁	内表紙拾二圓
廿七字詰一行 金廿五錢	金三圓	金五圓	金拾圓	外表紙拾八圓

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●郵劵代用は一割増の計算にて御送附被下度候

御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候。但手數料金壹錢御加へ被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

移轉

東京市小石川區林町四十三番地

新人社事務所

振替貯金口座一四〇〇五

明治四十三年十月二十九日印刷
明治四十三年十一月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正

印刷人　東京市小石川區小日向臺町一ノ二六　相原一郎介

發行所　東京府下豐島郡巣鴨村大字巣鴨六百六十一番地　新人社

印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　實業活版所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新人第拾壹卷第拾壹號目次

●朝鮮の基督敎徒を觀迎するの辭……………

▲敎　壇

●永遠の基督……………海老名彈正

▲想　苑

●人種改良論……………原口竹次郎

●自然と超自然の歸一……………白石喜之助

●督基傳の秋……………赤星仙太

●ビヨルンソンの死出の旅……………川島風骨

●書聖の子弟の日記……………松本雲舟

▲聖書研究

●馬可傳……………海老名彈正

▲東都講壇

●堯舜の治……………福本誠

●國家統一の要素に就て……………市村瓚次郎

▲評　論

●敎派合同に關する諸先輩の開書應答

●漸進的合同……………シユネーダー氏

●組合と日基の合併……………和田琳熊氏

●合同の實際問題としての朝鮮傳道……………中村長之助氏

●所屬敎派と斷つて合同せよ……………福田錠二氏

●下き範圍の合同……………光小太郎氏

●發達せる大敎派の合同……………小村武治氏

●差別を容れたる合同……………ギユリツク氏

●速かに合同の機運を作れ……………綱島佳吉氏

●新敎各派の合同……………安部淸藏氏

●合同の成否は方法の如何による……………日野眞澄氏

●合同の二理由……………小崎弘道氏

●合同は可否論にあらず……………川澄明敏氏

●合同の先決問題……………岡田哲藏氏

●共合一致の精神……………本多庸一氏

●政治經濟は什麼でもよし……………松村介石氏

●大合同の不利と小敎派の聯合……………富永德磨氏

●進歩派は進歩派と合同せよ……………赤司繁太郎氏

▲時　評

●靑年虐待の時代

●科學反動の精神

●文部省展覽會洋書印象記

●編輯局だより

發行所　東京市小石川區林町四十三番地

新人社

（振替口座一四〇〇五）

入會者日々數百人

速に入會せよ

共立女子職業學校

櫻友會內 女子手藝普及會編

女子手藝講義錄

普通科 一ヶ年修了 高等科

會員募集

萬里の外にある婦女にも少額の費用を以て家庭を飾り生活上の要具を拵へる最新智識を最も完全に實習し得るものは本會の講義錄獨りあるのみ 世界の技術と時の流行と斬新の考案を最新式の說明法に依り如何なる少女にも解るやう總振り假名を以て講述しあり

手藝は家庭の經濟上のみならず國家を豐富ならしむる原動力也

何人と雖も非常の速度を以て完全に理解し得るなり

講義課目

- 裁縫科 和洋各種
- 編物科 各種
- 組糸科 各種
- 刺繡科 各種
- 袋物科 各種
- 造花科 草花果實
- 細工物科 各種
- 割烹科 和洋料理
- 手藝圖畫科
- 科外講義 數種

質疑

會員の質問に對しては懇切に應答す

會費

	普通科	高等科
壹ヶ月	金參拾錢	金參拾五錢
半ヶ年	金壹圓七拾錢	金壹圓九拾九錢
壹ヶ年	金參圓貳拾四錢	金參圓七拾八圓

圖解入

彩色石版畫及鮮明なる木版畫十個入

進呈

入會規定 內容見本

入會申込所 東京日本橋角 大倉書店 電話本局四一四番 振替東京二三八番

新鮮ナル世界的知識ハ活動ノ資本ナリ

有らゆる方面に於ける先驅者、活動者、勝利者が必ず外國新聞雜誌の購讀者たる事實に鑑みて外國新聞雜誌來年度豫約期たる今日を必ず逸し玉ふ勿れ、新聞雜誌の與ふる知識は書籍よりも常に一二年を先んじて最も新鮮なれば學術界、文藝界殊に商工業界政治界に挺前機先を制せんとする諸君は活動の資本として必ず外國新聞雜誌の二三種以上を購讀し玉はん事を欲す

（外國新聞雜誌改訂目錄御照會次第送呈）

東京日本橋通
大阪心齋橋筋
京都三條通

丸善株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ポケツト形挿索風新聖書

基督教聖典

最も渇望せられたる聖典成る

著者が序に曰く「世に基督教を研究する人々の云ふ所をきけば基督教の經典は難解なる箇所多く殊に其内容に至りては殆んど五里霧中に彷徨するの感ありと而して彼等のうち聖書を不可解の一書として放棄するもの失望するもの亦少なからず若し項を分ち目を定め其思想の内容を取つて聖句を整頓する書籍あらんか如何に大なる祝福を彼等に與ふべきかを思ふこと茲に年あり」云々又「而してキリスト教を信ずる我儕には羅馬舊教徒を除いては聖書は生命の水を掬するの源泉なり吾人日常の生活は云ふを待たず悲哀にも歡樂にも種々錯雜せる境に在りても適當なる教訓と慰藉とをこの書に覓む而もこの適當の章句を適當の場合に覓むること能はざらんか渇を癒すに水なき感深かるべし然らば斯るキリスト教徒のために適當なる指示をなすに足るべき書の編纂は急務中の急務なりと思ひしも亦實にこの書編纂の一動機なり」云々と斯くの如く本書は新舊聖書中より數十の項目の下に適當なる聖句を編むこと親切正鵠にして卷末に**基督傳及新舊聖書の解題製作年表及基督教傳道史**を添附し是亦尤も苦心を極めて編纂したるものにして何れも一部の著書として充分の價値あるを信ず希くば諸卿が机上に本書を得玉ひて日夕其挿索に便益を感じ玉ふと共に未信者に一本を勧め玉ひて彼等をして幸福に浴せしめられんことを

赤司繁太郎編纂　ポケツト形クロス綴 箱入美本七百七十頁
樋口五葉裝釘　金壹圓　郵税八錢

佐野天聲新作
湯淺一郎裝釘

クロス綴裝釘頗美本 箱入金壹圓五拾錢 小包料八錢

イエス、キリスト

泰西名畫光澤紙摺
三色版及寫眞銅版
四十有二頁挿入

未だ基督を解せざる未信者にも又信者の家庭の讀ものにもと思ひ立ちて著者が一年餘の歳月を費して苦心したる通俗基督の傳記也著者は現代文壇に盛名ある有數の作家にして著者が艶麗なる彩筆と著者が信仰深き筆致は家庭傳道用として又信者未信者を不問國民一般の家庭用として絶好の讀もの也

トルストイ原著
小田頼造譯

再版

簡易聖書

下村爲山裝釘 クロス綴
箱入金六十五錢郵税六錢

發兌元　東京市麴町區平河町五ノ五（振替東京三八一七番）　金尾文淵堂

院長診察、月、水、木、金、午前入院、診後應需、

松田、林、峰間三副長ハ目下當院ニ在勤、

東洋內科醫院

電本 八八八八番(病院用) 八九八八番(私宅用)

東京神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町相海濱、從停車場半里

南湖院

電 チガサキ二番

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、

院長診察、土曜日午後入院、診後應需、

看護婦志願者募集

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

本誌愛讀者諸君は

ライオン歯磨を使用したる後直に口中の爽快を覺ゆるのみならず諸君の歯牙が如何に光澤を有し如何に健強となれるを知りや

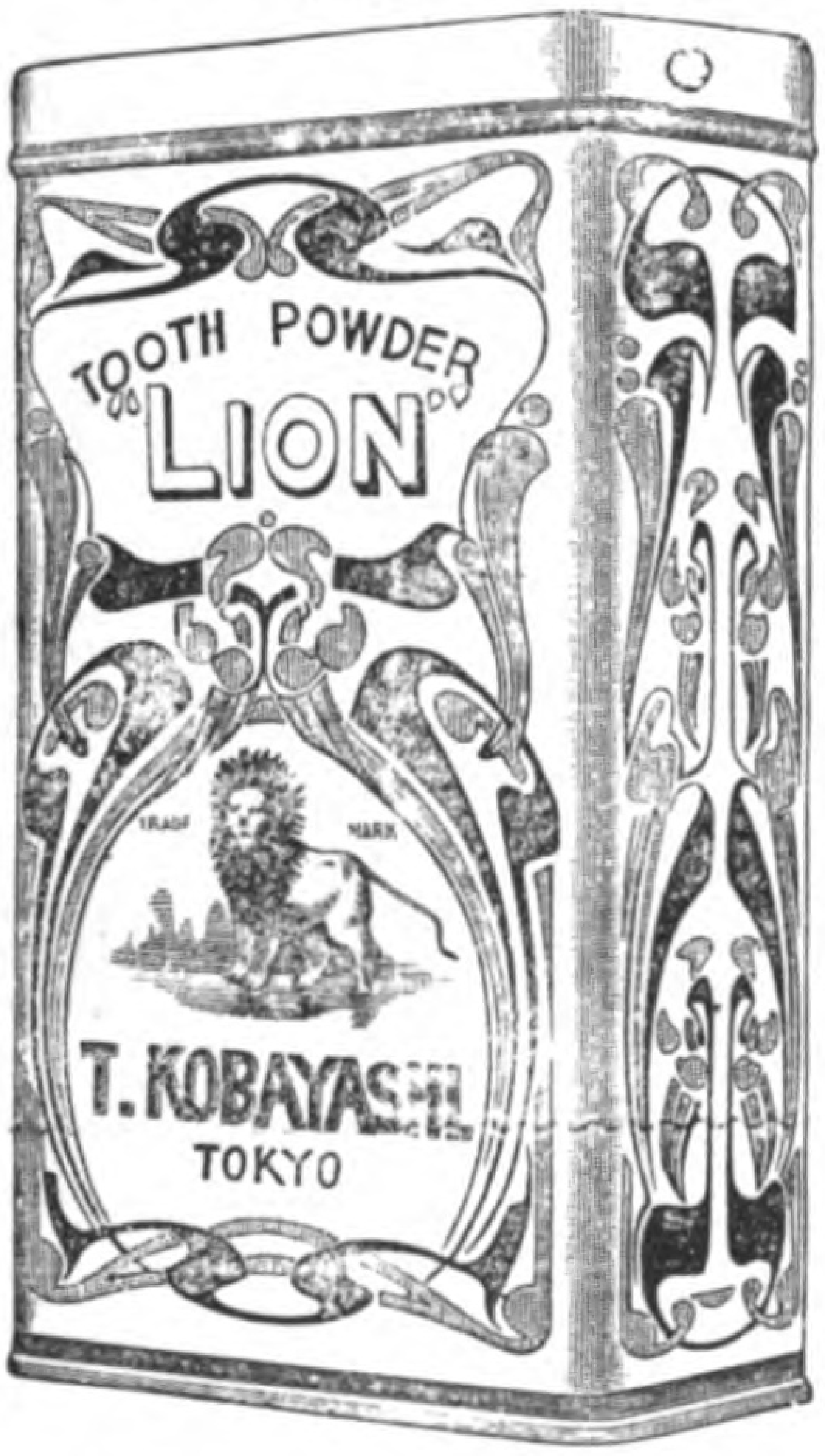
ライオン歯磨を用ゐたる時の口中の爽快と歯牙の清淨とは恰も入浴後に覺ゆる快感に等しきなり

家庭用

美術大鑵入

最も御徳用向

體裁優美にして正味頗る多量而も價格の廉なるが故に家庭用として好評嘖々たり



（定價　壹個　金廿五錢）

◉試用見本御入用の方は振替貯金又は郵券代用にて申込あれ直ちに郵送す

發賣元　小林富次郎

東京市神田區柳原川岸

振替貯金口座東京二五二六番

支舗　大坂市東區博勞町　清國　天津　漢口

明治四十三年十一月一日發行第貳卷第拾壹號